

北の資料 124

北方資料室40周年

北方資料室の足跡をふりかえる

北海道立図書館

はじめに

平成22年度は、北方資料室が設置されてから40年目の年になります。

北方資料室は、昭和45年、それまでの一般資料と同様に扱っていた北海道、旧樺太、千島に係る資料を収集・整理・保存し、様々な調査・研究等のための閲覧、レファレンス業務を一元的に担当する部署として誕生しました。発足当時は、蔵書も1万6千冊余りだった北方関係の資料も、平成22年度には、23万冊を超え、古文書、古地図から北海道に係る図書や雑誌等の刊行物、絵葉書、パンフレット等多種多様な資料を所蔵しています。

また、古文書解読講座、資料で語る北海道の歴史等の講演、講座の開催や、目録・書誌の発行等様々な事業や資料を発行してまいりました。

今年度は、40周年としての記念事業を実施するとともに、今回の「北の資料」は、その総まとめとして、北方資料室を支えていただいた方からの寄稿と40年間の歩みをたどってみました。改めて振り返りますと、図書館関係者や研究者の方々、さらに、北方資料室を利用されている方々やこれまでの北方資料室の仕事に携わっていた職員の方々等、本当に多くの方のご協力、ご支援により今日があることが実感されます。

この場をお借りして感謝申し上げますとともに、これからも北方資料室を様々な形でご利用いただき、また、多くの方に支えられながら、さらに北方資料室を充実させていく所存です。

北方資料部長 鈴木 浩一

目 次

■はじめに

■寄稿

「北方資料室 40 年に」 北海道史研究協議会長 田端 宏	1
「北方資料室と私ー北方資料室 40 周年に寄せてー」 北海道史研究協議会会員 関 秀志	3
「図書館が職員に期待すること」 江別市情報図書館長 佐々木 孝一	4
「北方資料室に期待する」 旭川市中央図書館副館長 松田 有司	5
「北方資料室の草創期を顧みて」 初代北方資料室長 岡原 正司	6
「創設 40 周年に寄せて」 第七代北方資料室長 大島 教子	8
「北方資料室入ったり出たりの記」 初代北方資料部長 樋山 ミチ子	9

■北方資料室関連年表	11
■主な特別コレクション	14
■北方資料室発行物一覧	19
■『北の資料』掲載記事目録	21
■『北海道立図書館報』掲載 北方資料関連情報	25
■北方資料室資料展示一覧	34
■これまでの講座・講演会	39
■北方資料室 40 周年記念事業	42
■北方資料室いまむかし ～昭和 45 年度と平成 21 年度の統計数字をみくらべる～	46
■機構の主な変遷および歴代北方資料室長（部長）名	48
■編集後記	

北方資料室 40 年に

北海道史研究協議会長 田端 宏

道立図書館北方資料室 40 周年にあたって『北の資料』の特集号が企画されているということで、小文を寄せることといたしました。

私たちの研究会、北海道史研究協議会は、道立図書館との深い関係のうちに発足したのです。「開道百年」を経過した昭和 40 年代、経済成長の活発な年代には、改めて地域の歴史に関心を寄せ、社会を見なおそうとする動きも目立って来て、『新北海道史』の刊行など、自治体史の編集、刊行がすすんでいました。この頃、道立図書館では、北方資料の整理、収集に特別な注意を払って活動をはじめており、図書館職員の研修としての古文書解読講座がおこなわれるようになっていたとのこと。この古文書解読講座は広く一般の受講者も集めておこなわれるようになり、自治体史の、編集、執筆を直接、担当している人々も多く参加するようになると、解読力の向上、利用法の研究などのほか、自治体史編集上の様々な問題を話しあったり、情報交換をおこなえる研究組織をつくりたいという気運となり、有志のよびかけによって昭和 41 年 7 月、北海道史研究協議会の創立総会が開かれることになったのです。道立図書館の古文書解読講座が重要な契機となっただけでなく、創立総会への準備過程も「事務上のとりまとめは北海道立図書館に依頼」(『北海道史研究協議会創設二十年の歩み』)してすすめられたということですから、道立図書館、特にその北方資料研究の活動なしには道史協の発足は考えられないわけです。

発足のあとも、道史協の事務局は、道立図書館内におかれて、諸会議の準備、連絡、会報の編集、発行などさまざまなことで図書館職員の方々のお世話になっていました。

北方資料室の室長さん以下の職員の方々に特にお手数をかけての会運営がおこなわれていたわけですが、会運営のこととは違う個人的な北方資料利用上のことでも様々にお世話になってきました。北方資料室を訪れる人々は、図書、資料の閲覧というよりは、目的をもった資料調査のために来ているために、資料探し、そのものを職員の方々に依存しなければならない場合、資料の読み方を尋ねる場合などを見かけることもよくありますが、どんな場合でも、丁寧に対応される様子がとても印象的です。

道史協の事務局は、今は道立図書館・北方資料室からは離れて、会運営上、直接お世話になることが少なくなっていますが、総会の折に、館長さんの御挨拶をいただくとか、OB 職員の方々が道史協会員となって、会務を援けてくれているなどのことはずっとつづいています。道史協は道立図書館・北方資料室の活動と歩武をあわせてすすむことになるのだと思っています。

『北の資料』には、個人的に大変お世話になっていました。現在のようなインターネットの資料検索で資料の所在を確かめる方法はなく、道立図書館の『蔵書目録 第 11 分冊 北方資料篇 1』という便利な目録も手元にはなかった時、『北の資料』の「河野常吉資料目録」や「林家文書目録」はとても有難いものでした。『松前町史 通説編 第一巻上』の原稿を執筆中の頃（昭和 50 年代中頃）でしたので河野常吉資料のうち

の「飛騨屋旧記」などによって新井田孫三郎「寛政蝦夷乱取調日記」だけでは知ることのできないいくつかのことに触れて原稿をつくることができたなどのお世話になったわけです。

今後ともいろいろなかたちでお世話になることと思っています。道立図書館・北方資料室の充実した活動の発展を祈念しつつ小文を終わります。

北方資料室と私—北方資料室 40 周年に寄せて—

北海道史研究協議会会員 関 秀志

私が初めて北海道立図書館を訪ねたのは、大学卒業後、羽幌町史の編集に着手した昭和 35、6 年頃であった。当時、道立図書館は札幌市北 1 条西 5 丁目（現道立文書館分館）にあって、郷土資料室が置かれていたが、資料はまだ豊富とはいえない状態だった。

道立図書館が身近な存在になったのは、昭和 39 年に同館で古文書解読講座が始まり、同 41 年に全道各地から参加した受講者の要望により、講師の高倉新一郎先生を会長に北海道史研究協議会（道史協）が発足し、事務局が道立図書館に置かれるようになってからである。

翌昭和 42 年、道立図書館が現在地へ移転し、道史協の事務局がここに移り、古文書解読講座もここで開かれることが多くなったので、講座への参加を兼ねて羽幌町史編集のために北方資料室を利用する機会が多くなった。丁度この頃から北方資料の収集が道立図書館の重要事業となり、年々史料が充実すると共に、北方資料閲覧室も整備され、われわれ研究者にとって欠くことのできない機関となった。このころ特にお世話になったのは、後に山形県史編さん主査となった岩松良寛氏と北海道史研究者の君尹彦氏であった。

昭和 44 年に北海道開拓記念館開設準備のため、羽幌から札幌に転勤してからは、公私共に北方資料室を利用することが多くなった。昭和 47 年から『北の資料』が発行され、北方資料に関する豊富な情報が提供されるようになった。現在のようにインターネットによる情報検索が出来なかった当時としては、大変ありがたいことであった。

私が利用した北方資料室の史・資料は市町村史・古地図・新聞・統計・道庁公報・東北諸藩の蝦夷地関係文書・旧記・開拓使文書・北海道開拓・拓殖関係史料など極めて広範囲にわたり、家分け文書（特別コレクション）では河野常吉資料・北越殖民社資料・佐藤正克文書・田辺朔郎鉄道資料が印象に残る。特に、河野常吉資料は質・量共に群を抜く重要資料で、道立図書館江別移転 40 周年記念講演会でも話題にさせていただいた。

道立図書館（北方資料室）主催、道史協後援の古文書解読講座はその後も続けられ、多くの北海道史・市町村史の研究者が育ち、これらの方々は北方資料室のサポーターとなった。創立以来お世話になってきた道史協の事務局は、平成 18 年に北方資料室を離れたが、両者の協力関係は現在も継続している。ありがたいことである。

ふり返ってみると、私の北海道史・地域史研究のあゆみは、北方資料室利用の歴史でもあった。改めてお礼を申し上げたい。コンピューターの普及により北方資料の検索は著しく便利になったとはいえ、利用者への行き届いたサービスには、ますます司書の方々の力量が求められます。この機会に先輩諸氏が築かれた実績を再確認し、一層活躍されることを期待します。

図書館が職員に期待すること

江別市情報図書館長 佐々木 孝一

図書館職員の専門性について考えてみたい。

“専門家”を辞書で引くと「特定の分野を専門に研究・担当しそれに精通している人、エキスパート」とある。前川恒雄はこれにつづけて“他の人に役立つ人”とした。他の人の役に立たない、えせ専門家も存在するという指摘だ。

司書は専門家をもって自任しているが、かつては目録(カード)を作成することが、専門性の第一に挙げられていた。資格取得のための学習でも多くの時間が割かれていたし、実際の現場でも他の追従を許さない職務として位置づいていた。また経験の蓄積がものをいう分野であった。

ところが電算機が普及するにつれて、この業務量が大幅に減少した。地域資料の一部を除いて、自館での入力が必要になってきたからだ。もちろん、電算機の普及以前でも司書の専門性が目録作成だけにあったわけではない。むしろ目録に係る業務が過重で、それ以外に手が廻りかねていた。だから電算機導入の効果として、他の業務、資料の読み込みと二次資料の作成や書架の工夫や展示といったことに時間が割けるようになっていた。

図書館職員の中には“クラシック音楽”とか“コミック”とか、ここに球が来たら長打必至という職員が結構居る。ただ仕事の質と置かれた環境によって求められる能力に相違が出てくる。東京文化会館内の音楽図書館なら前者は必須の能力だし、楽典や楽譜の読み込みなどそれ以上のものが要求される。

利用者も対象も一般的で幅広い公立図書館の場合、それが何になるのかということについて、図書館員は無自覚であってはならない、と考える。道立と市町村立では当然立場が違ふし、江別と室蘭とでは同一であるはずがない。街の歴史や人々の暮らしに不可分に結びついて、利用者が期待を寄せるものも異なるからだ。

江別市情報図書館の設置が決った、昭和62(1987)年5月、この命題が館運営の基本に深く関わってきた。「江別といえば—」ということと「何が期待されるか」は、案に相違して不一致であったし、図書館本来の役割から導かれる不易の部分織り込んで行かねばならなかった。

そんな時、示唆を与えてくれたのが、井上元則の旧蔵資料だった。没後一年を経て遺族が寄贈したものだが、個人収集の資料群とはいえ、ここには江別のテーマ、森も河も煉瓦もあった。加えて多くの公職と幅広い交友で得られた膨大な資料群であった。この整理の過程を通じて多少とも江別市の図書館で期待される能力の一端がつかめたように思えたものである。

得手不得手、好き嫌いといった個人的事情を別にして、組織として図書館は職員に期待すること求めていくことがある。その完遂を通じて興味と関心はその方向性に沿って発展していくことこそ、珠玉の資料群の光沢が増すのではないか。道立図書館の珠玉は、他の図書館のそれを質と量で圧倒している。

北方資料室に期待する

旭川市中央図書館副館長 松田 有司

道立図書館の北方資料の位置付けは、市町村立図書館における郷土行政資料に相当する。その自治体にかかわる資料は、いわば世界一のコレクションを形成していなくてはならない分野である。道立図書館は長い歴史の蓄積から、林家文書、伊達家文書を始めとした膨大な資料群を有している。特にアイヌ関係資料は、一括分類整理され利用しやすい工夫がなされている。アイヌ関係資料については北大附属図書館、函館市中央図書館等が有数なコレクションを構築しているが、利用しやすさといえば矢張り道立図書館であろう。今後とも道民・研究者に継続的・安定的に資料の蓄積と紹介・提供に努める役割は大きいと思われる。とはいえ、北方資料は原則貸出禁止であり、道立図書館まで出向かなければ資料の閲覧は難しいという課題がある。そこで提言である。

一つ目は書籍の電子化である。昨年度は「電子書籍元年」といわれ電子図書が何度目かの話題になっている。日本の場合は出版契約や著作権法等の問題により、アメリカと比較して電子書籍化できるコンテンツが少なく（特に新刊はその傾向が強い）、爆発的に普及する段階にはないようだ。商業ベースでの普及はさておき、公立図書館における電子書籍化を考えたとき、道民にとって財産ともいえる北方資料（例えば著作権の切れた資料等から）をデジタル化し、その電子図書を貸出す仕組みを構築するというのはどうだろうか。これが実現すれば、道民は今迄借出しできなかった貴重な地域資料を借りることができ、図書館にとっては貸出期間が過ぎた電子図書は自動返却され、督促業務がなく資料現物の劣化も防ぐことができるという利点がある。どう予算化し、どの資料から手掛け、デジタル化方式をどうするのか等、解決しなければならない課題は多いが、道立図書館が中心になり市町村を巻き込んで着手できないものかと考えている。

いまひとつの思いは、道立図書館は道内市町村を支援する図書館であり、道民にとって貴重な資料を未来永劫、安定的に保存し、提供に努める責任のある教育機関である。片山総務大臣も「公共図書館は指定管理者になじまず、行政が直営で運営すべき」と明言しているとおり、北海道教育委員会の責任において直営を維持し優秀な司書によって図書館サービスを提供し続けてもらいたいということである。一市の図書館職員としてまた道民の一人として強く訴えたいところである。

今後、50周年100周年に向けて、北方資料室の一層の充実と発展を期待したい。

北方資料室の草創期を顧みて

初代北方資料室長 岡原 正司

古里の道南の高校に勤め社会科を担当したが 17 年経った時に小学 1 年生の長男が事故に遭い、札幌の病院に長期入院した。そんな時に道立図書館に北方資料室が新設され縁あって昭和 45 年 6 月 1 日付で初代室長になった。

図書館業務は初めてでとまどいがあったが多くの人たちの理解・協力を頂き何とか軌道に乗せることができた。君尹彦係長をはじめ一人ひとりの室員の名前と顔が今も去来する。また、北方資料室に北海道史研究協議会の事務局が置かれ古文書解読講座などを通じ多くの地方史家と出逢えたことは終生の宝物となった。当時、新北海道史編さん中の高倉新一郎先生はじめ渡辺茂先生や更科源蔵先生など市町村史編さんブームの中で高倉学校のお世話が出来て嬉しかった。古文書解読講座の成果は「北海道市町村史編集の手引」としてまとまった。

新しい資料情報を提供いただいた札幌の弘南堂やえぞ文庫などの古書店主たち、資料利用者の史実にこだわった作家吉村昭さんや原田康子さん、地名研究家山田秀三さんらとの交流。新しい資料や情報を提供いただいた金田一京助先生の弟子成田修一さん、久保寺逸彦先生の弟子佐々木利和さんにはアイヌ資料収集にどれだけひ益したかはかり知れないものがあったり多くのマイクロフィルム化で収集した。特に金田一春彦先生から頂いた知里幸恵ノートは忘れ難い。このノートは昨年、道指定有形文化財の指定をうけ感慨深い。

私が赴任し最初に手がけた資料は野幌の開拓に入植した殖民会社北越殖民社資料整理で、今でこそ著名な米こしひかりの採れる新潟北魚沼郡の貧しい農民たちを引率し大橋一蔵は明治 19 年入植したが大橋一蔵が亡くなり郡長関矢孫左衛門が来道し苦斗を重ねた。北越殖民社は昭和 27 年解散するまで成功した殖民会社として著名である。関矢孫左衛門の子の関矢留作が手掛けて亡くなった以降、妻の関矢マリ子が引継ぎ完成させた不朽の名著 野幌部落史 がある。この著述のために収集された莫大な資料の整理をするため関矢マリ子さんを訪れ資料寄託を受けた。資料の関矢孫左衛門の北征雑録（明 19～22）1 冊・北征日乗（明 22～35）42 冊・耳順録（明 36～45）26 冊・古稀葉（大 2～5）6 冊の日誌 75 冊は単なる個人の日誌と言うよりは北海道拓殖史そのものであった。昭和 46 年 10 月、資料目録の完成と共に資料寄贈をいただいた。

幾つかの資料整理のなかで印象に残るもの一つに札幌オリンピック冬季大会資料があった。昭和 47 年 2 月の開催で、招致運動から大会終了までの総てを収集しようと言うことでマーク入りの杉材の一合拵やコースター、記念切手、タバコ、宝くじ、ゴム風せん、記念貨……など博物館的資料までを収集した。

北大の学生運動の激化の中、知里真志保の研究資料が、緊急避難で北方資料室に預託された。この資料をアイヌ民族に返還するように、アイヌ革命家を自称する人物が雑誌で訴え、返還手続きを開始しなければ、「お前たちのいのちで支払うことになる」と脅迫され、道警の S P が身辺警護についたことがある。件の人物も一昨年春に熊本

で亡くなった。

昭和 52 年 4 月、道北の留萌高校定時制に転任し 7 年間の勤務を終えた。赴任した時、河野常吉資料など多くの未整理資料があった。転任に際し学生運動資料・恵庭事件資料など多くの未整理資料を残し心ならずも野幌の地を離れた。

創設 40 周年に寄せて

第七代北方資料室長 大島 教子

「蓮の葉氷」についての質問を受けたのが北方資料室に配属されてはじめてのレファレンスだった。北方資料室が開設された翌年のことで、何故か記憶に残っている。あれから四十年も経ったのかと思うと感慨深いものがある。その後、何度か他課に移ったりしたが、最後は北方資料室で業務を終えた。

当初は良き先輩のうしろに安心してついて来たが、これまでを振り返ってみた時、夢中で走り続けて来て、余裕をもって仕事をして来ていなかったのではないかと反省ばかりが残る。

そんなことを思いながら、北方資料室で培われたことどもの中で何が一番印象深かったかという、最初に係に移って間もない頃に「河野常吉資料」の整理に携わったことがあげられる。

この資料は殆どが手書きの草稿資料で、大雑把に括られていたものを、初代室長の岡原氏の陣頭指揮のもと、埃をはらい、アイロンでシワをのばし、糸とじをし、帙を作り、とその整理には日常業務と並行しての作業でずい分時間がかかり、相当に根気のいるものだったが、室長の努力の末に昭和 49 年「河野常吉資料目録」の完成をみた。この目録の作成により、当時道内市町村史編纂事業が盛んであったことも相俟って、一級資料として大いに活用されたものだった。あの時の達成感は今でも忘れられない。この若い時の経験がその後、いくつかの一括資料の整理にかかわる折の参考になった。そして、一枚もの書き込まれた記述であっても歴史の一端を読みとる貴重な資料になる、ということも学んだ。パンフレット一枚にもその時々の歴史を知る大事な資料だ、ということも認識し、今だに、あちこちで目にする集めてくる癖がぬけない。

一方、北方資料室で仕事をして来たおかげで、諸先達に出会えたことも幸運だった。高倉新一郎先生、山田秀三先生、渡辺茂さん等々、係のすみっこにいる私にも声をかけて下さった。谷澤尚一さんからは多くのことを教えていただいた。閲覧に来られた方々からもいろいろと教わった。また、若い研究者の方や、学生さんが、その後、各方面で活躍されているのを知るにつけ、本当に嬉しく当時がなつかしい。

上司であった岡原室長、君室長には退職された後々も沢山の教えや示唆をいただいた。資料に関しては、年月を経ているにもかかわらず、感心するばかりに熟知しておられた。この四十年間の北方資料室の基礎を築かれたお二人である。

図書館は資料があつてこそ、そしてそれを効率よく利用してもらうこと、それには自館資料を十分に知り提供できるようにすること、保存に十分に心して後世に残すこと、それが利用者への第一のサービスと考えて来た。今までの四十年間の蓄積が現在大いに活用されていることを思うとき、四十一年目の第一歩からさらに充実して積み重ねて行ってほしい、と願っている。

北方資料室入ったり出たりの記

初代北方資料部長 樋山 ミチ子

私が在籍したのは、①平成元年11月～7年3月、②10年度、③16～18年度の計9年5ヶ月、そして、④退職後（再任用／19～20年度）の2年間です。累計して11年余のことです。

郷土資料に携わりたい希望が叶えられずにおり、当時の室長に直訴し、欠員のあった〈北方〉行きが実現した一回目。ちょっと敷居が高く仰ぎ見ていた新しい場所では、逐次刊行物が主担当で、図書の整理もする毎日でした。図書の目録カードは手書きを印刷機でプリントし、カードボックスへ繰り込むといった按配でした。電算化計画は①の後期で、雲を掴むような思いで準備したものです。

②の1年間は、レファレンスと図書整理担当です。すでに電算が稼働しており、業務仕様は激変していました。そんな中で、『北海道立図書館蔵書目録 第27分冊 北方資料篇 10 芸術・語学・アイヌ資料』の発行。これが、館としても最後の冊子体目録になり、昭和43年度以来の事業は終結したのです。図書館環境の変貌の一つでした。③の時期は、「室」が「部」となった〔※16年度に組織改正／1部2課／閲覧室名は変更なし〕時ですが、5年ぶりの〈北方〉。過去の悔いを繰り返してはならじとの緊張感がありました。恥を恐れず告白しますが、一回目の初め頃『北海道志』を『北海道史』？などという初心者だった自分。一回目の勤務を離れて、少し経った頃に押し寄せてきた恐怖感を今も忘れられません。資料と利用者の仲介役を果たし得ていたのだろうか、その一点がそのような気分させたのです。本当に怖いことは、まさにその時ではなく時間差で押し寄せてくるのですね。

*

*

カウンター業務は好きでした。しかし、地域資料の利用者は館員よりもはるかに識見豊富。コンピュータは便利ですが、それでもなお埋められぬ陥穽。それには専門知識の研鑽しかないので、道標とともにツール等整備のヒントも沢山いただき、多くの人とのよき出会いも大変にありがたいことでした。道立図書館員として職を得、〈北方資料部員〉として卒業したような感慨が強いのは、最後の居場所だったこともありますが、利用者の方との距離感の近さだったのかもしれません。

在任中、拓銀破綻（平9.11）と北海タイムス社倒産（平10.9）に伴う資料室の閉鎖と、一部資料の当室への移譲がありました。資料をいつまでもそこに置き、提供し続けることが困難になることもあるのです。劳しい出来事でした。図書館から遠ざかって2年。あるセミナーで、〈場所の記憶（録）の無いところに未来（構想）は成立し得ない〉と聞きました。それは、〈道立図書館郷土資料〉を築いてきた先輩たちに想いを馳せ、わが（？）北方資料室の方向を確信することにもなったのです。

北方資料室関連年表

□ 旧館（札幌市中央区）時代

大正 15 (1926) . 11	北海道庁立図書館開館（札幌市中央区北 1 条西 5 丁目）
大正 15 (1926) . 12	閲覧開始 『行啓記念北海道庁立図書館報』 創刊
昭和 22 (1947) . 5	郷土資料室整備
昭和 25 (1950) . 4	郷土資料室開設 更科源蔵氏（郷土史研究者・詩人・作家）を囑託として迎える
昭和 25 (1950) . 7	「図書館法」施行
昭和 26 (1951) . 4	北海道図書館条例、北海道図書館協議会条令公布 北海道図書館と改称
昭和 26 (1951) . 10	北海道郷土史料展覧会「本道地図の変遷」 於三越
昭和 29 (1954) . 12	郷土資料室拡充、開架式採用
昭和 32 (1957) . 1	『北海道図書館郷土資料室月報』 創刊 4号（9月15日）で休刊

「道庁内に未整理のまま山積の旧記、簿書等、地方史研究の貴重な資料を、北海道図書館に移管すべし」（郷土史研究者の間の声、高まる）

昭和 34 (1959) . 5	北海道地方史研究会常任委員会 於当館 （北海道庁所蔵史料の当館への一部移管方陳情の件）
昭和 34 (1959) . 7	北海道地方史研究会、道議会総務委員会へ陳情
昭和 35 (1960) . 9	「北海道図書館整理規定」を定める（郷土資料に関しては、第 9 章に記載）
昭和 36 (1961) . 8	上記陳情、道議会本会議で不採決 ※だが、この運動により当該資料の重要性が道でも認められた。 昭和 43 年、道総務部行政資料室設置へ

新館構想 北方資料の充実へ

昭和 38 (1963) . 9	文化講演会会場にて、東大学長茅誠司氏、北大学長杉野目晴貞氏等より、町村知事に道立図書館新築の懇請あり。知事公約す。
昭和 39 (1964) . 4	北海道立図書館と改称
昭和 39 (1964) . 12	北大高倉新一郎氏を講師に「古文書解読講座」開設 以降年 2 回ずつ開催
昭和 40 年度	「北方資料収集会議」設置 館長の諮問機関 ※北方資料の収集計画樹立のため、12 名の委員を委嘱 （高倉新一郎北大名誉教授ほか）
昭和 40 (1965) . 7	北方資料収集会議 第 1 回 「北方資料収集会議規約」作成
昭和 41 (1966) . 7	北海道史研究協議会発足 事務局は当館内に

昭和 41 (1966) . 8	北方資料収集会議 第 2 回 「北海道立図書館北方資料整備計画」樹立 ■計画収集 第 1 次 5 カ年計画 (昭和 41~45) ……明治維新まで旧記類 第 2 次 5 カ年計画 (昭和 46~50) ……開拓使、三県一局時代 第 3 次 5 カ年計画 (昭和 51~55) ……道庁初期時代 ■随時収集 ……新刊、古書等を随時 ■特殊収集 ……道内の行事、事件等特定テーマについて多角的、 網羅的収集 「北方資料」という名称を用いることに決定
昭和 41 (1966) . 11	『北方資料』創刊 7 号 (42 年 10 月) で休刊

□ 新館（江別市）時代

昭和 42 (1967) . 4	新館開館（現在地） 中 2 階に「北方資料閲覧室」設置
昭和 42 (1967) . 5	機構改革 職員 23 名 (3 係制) → 42 名 (3 課 6 係制) 資料課…一般資料係、特殊・北方資料係 (2 係体制) (北方資料収集担当は資料課特殊・北方資料係)
昭和 42 (1967) . 8	「北海道立図書館資料収集計画」作成 北方資料の整備に力点
昭和 45 (1970) . 3	「北海道地図のあゆみ展」 於丸善 3 階
昭和 45 (1970) . 4	機構改革 「北方資料室北方資料係」新設
昭和 46 (1971) . 3	北方資料収集会議 第 5 回 「北方資料」の概念明確化
昭和 46 (1971) ~	市町村史編集研修会 講師：高倉新一郎氏 (昭和 46.8 昭和 47.6 昭和 47.10 昭和 50.1 開催)
昭和 46 (1971) . 10	当館、道総務部行政資料室 (後に課)、北海道開拓記念館の 3 機関で資料収集に関する打合せ、道機関資料収集会議発足
昭和 47 (1972) . 6	行政資料等収集機関連絡協議会発足 7 機関 (前記 3 機関 + 道史編集所、道議会事務局、道立教育研 究所、道立総合経済研究所)
昭和 47 (1972) . 7	『北の資料』創刊
昭和 48 (1973) . 7	「北海道立図書館整理規定 (北方資料の部)」施行
昭和 49 (1974) ~	道総務部行政資料課を窓口、道刊行物の収集、配付の一元化 実施
昭和 50 (1975) . 7	「所蔵資料にみる北海道の 50 年回顧展」 於当館
昭和 54 (1979) . 2	『北海道立図書館蔵書目録 第 11 分冊 北方資料篇 1』発行
昭和 54 (1979) . 6	「北海道立図書館資料収集方針」決定
昭和 62 (1987) . 8	北海道史研究協議会創設 20 周年記念式典 於ホテルアカシア
平成 4 (1992) . 3	「北海道立図書館北方資料整理要領」を定める。
平成 4 (1992) . 4	土曜日曜全日開館実施

平成 7 (1995) . 4	道立図書館所蔵資料展示会「戦後の創刊雑誌／北の古地図」展 (第 7 回全国生涯学習フェスティバル事業 於アクセスサッポロ)
平成 9 (1997) . 4	北海道立図書館情報システム・ネットワーク本格稼動
平成 11 (1999) . 3	『北海道立図書館蔵書目録 第 27 分冊 北方資料篇 10』発行 以後廃刊
平成 11 (1999) 夏頃	北方資料室内のカード目録を撤去
平成 11 (1999) . 8	直接貸出開始
平成 11 (1999) . 11	祝日開館試行実施 (平成 20. 4 本格実施)
平成 13 (2001) . 3	ホームページ開設 「北海道立図書館資料収集方針」改正
平成 14 (2002) . 12	Web-OPAC 公開
平成 15 (2003) . 6	夜間開館試行実施
平成 16 (2004) . 4	機構改革 北方資料室から北方資料部へ
平成 17 (2005) . 1	北海道立図書館横断検索システム開始
平成 17 (2005) . 6	インターネット予約貸出サービス試行実施 (平成 18. 4 本格実施)
平成 17 年度～	北海道立図書館利用講座開催 (以後毎年開催) 北方資料部でも、図書館ボランティアとの協働開始
平成 18 (2006) . 7	北海道史研究協議会創立 40 周年記念式典 於札幌エルプラザ * 7 月の総会以後、事務局は当館から北海道出版企画センター へ移行
平成 19 (2007) . 10	江別移転 40 周年記念事業 ・ 3 回連続講座「資料で語る北海道の歴史」講演会 ・ 展示「木版蝦夷地図にみる北海道」
平成 21 (2009) . 10	「北の大地のフルーツを！」講演会
平成 21 年度～	北方雑誌の目次データの遡及入力開始
平成 22 (2010) . 1	北方資料デジタル・ライブラリー開設
平成 22 (2010) . 3	当館所蔵『知里幸恵ノート』、北海道指定有形文化財に指定
平成 22 (2010) . 7	北方資料室 40 周年記念事業 ・ 5 回連続講座「今すぐ暮らしに役立つ北方資料入門講座」 ・ 展示「暮らしに、仕事に、図書館を ～『こんなに使える!』 北方資料編 ～」
平成 23 (2011) . 2	北方資料室 40 周年記念事業 ・ 「竹鶴政孝と北海道～日本にウイスキーを伝えた男の愛と情熱の物語～」講演会、展示
平成 23 (2011) . 3	『北の資料』北方資料室 40 周年記念号発行

主な特別コレクション

< >内は請求記号

◀ 家分け文書、個人旧蔵資料等 ▶

■阿部家文書 <091/A>

北海道新聞社長で北海道放送株式会社初代社長でもあった阿部謙夫（アベ シズオ 1894－1972）の養祖父で実業家・阿部興人（アベ 興ト 1845－1920）、新聞人・阿部宇之八（アベ ウノハチ 1862－1924）を中心とする阿部家に関する資料 2,858 点

■安中松五郎文書 <091/A>

寿都の鯨漁家、安中松五郎（アンナ マツゴロウ）に関する明治大正期の資料 192 点

■棒二森屋・渡辺家資料 <091/B>

函館の事業家であった初代渡辺熊四郎（ワタベ クマシロウ 1840－1907、海産物商の後、百貨店棒二森屋の前身である金森森屋洋物店を設立。また、明治 11（1878）年、北海道初の新聞『函館新聞』をも創刊）を祖とする渡辺家のうち、3代渡辺熊四郎とその家族、関係者の書簡と葉書その他の資料 1,266 点

■伊達家文書 <092/D>

天明年間に北海道に渡り、場所請負人として北蝦夷地（樺太）の開発で富商となった伊達家の文書 598 点

■藤田漁場文書、藤田商店関係資料 <092/F>

浜益村藤田商店関係、淑徳婦人会関係資料。明治 30～40 年代

■福島屋文書 <092/F>

近世初期から明治初期まで松前を中心に場所請負人として活躍し、漁業、物資流通業、造船、本州との交易、山道開削等、豪商として代々栄え、北海道開発に功績のあった田付家の資料 110 点。天保、嘉永、安政、慶応、明治年間の借金証書が大部分をしめる。

■後藤邦義資料 <093/G>

宮城から丸瀬布へ移住し、北海道庁職員として網走、留萌、河西、桧山の各支庁に勤務。江別市助役、酪農学園事務局長を歴任した後藤邦義（ゴトウ ケンヨシ 1899－1969）の、ノート、日記、書簡等 72 点。大正 10～11（1921～1922）年、北樺太出兵時の記録も。

■橋本堯尚関係資料 <093/HA>

明治 32（1899）年専売局職員として小樽へ赴任。五十嵐鉄、河野常吉と郷土史研究のため小樽史談会を組織。北海道史の編纂委員も務めた橋本堯尚（ハシモト キョウショウ 1864－1935）の自筆資料ほか 82 点

■林家文書 <093/HA>

余市の場所請負人、林長左衛門（ハヤシ チョウザエモン 1820－1882）をはじめとする林家代々の文書類 635 点。北海道史研究上でも極めて重要なものである。

■北越殖民社関係資料 <093/HO>

北越殖民社とは明治年間に北海道に移住し、野幌を中心に経営した会社組織の大農場で、創立から解散までの資料 529 点

■一条忠郎資料 <094/I>

岩手県生まれ。明治 6 年大蔵省検査寮に出仕、明治 20（1887）年北海道庁理事官就任、同 23 年会計検査院に戻った。初代長官岩村通俊、2代長官永山武四郎に仕え、道庁草創期の施政に参画した一条忠郎（イツジョウ チュウロウ 1853－1908）の北海道関係資料

■開拓使出版物資料 <094/KA ほか>

明治2(1869)年開拓使設置。明治6年には札幌に本庁を移し、東京出張所に活版所を設け、開拓使事業に関する多くの図書を刊行した。印刷技術の進歩は著しく、鉛活字は道内各地へ普及。北海道出版文化の発展に大きく貢献したこれら開拓使出版物資料

■金房家日誌 <094/KA>

狩太村(現ニセコ町)にあった金房家の明治27年から昭和3年までの日誌

■川島専三資料 <094/KA>

『北海道史』『新撰北海道史』『室蘭市史』(1941年刊)の編纂に携わった、川島専三(川島長治郎)(カシマ センゾウ)が残した諸資料192点

■今田敬一氏寄贈資料 <094/KO>

洋画家、林学博士、北海道大学名誉教授の今田敬一(コシダ ケイイチ 1896-1981)旧蔵資料273点。学生時代、美術グループ・黒百合会で活躍。大正14年北海道美術協会(道展)の創立に参加。北海道美術界の発展に寄与

■河野常吉資料 <094/KO>

北海道史の編纂を志し、樺太研究にも尽力して『嗚呼樺太島』を執筆した河野常吉(カノ ツネキチ 1862-1930)の自筆を主とした資料1,263点

■松井愈氏資料 <095/MA>

元北海道大学理学部教授であり、十勝管内忠類村でナウマン象化石発掘などを行った松井愈(マツイ マサル 1923-1996)が遺した自筆原稿、論文・論考など254点

■松崎家文書 <095/MA>

石川県越前国坂井郡新條村、松崎家の本道各地の商店との取引に関する証書等4冊。明治7、8年頃から明治15、16年頃。慶応3年のメモ帳もあり。

■中村多四良資料 <095/NA>

中村多四良(ナカムラ タシロウ)は明治7(1874)年生まれ。小樽で海陸物産雜穀商、倉庫業、運漕業、塩元売捌等を営む。小樽煙草元売捌合資会社経営。小樽雜穀商同業組合組長を務めた。明治から昭和までの中村商店、中村農場関係書類等綴り43点

■西尾長次郎元帳 <095/NI>

文久元(1861)年生まれ。清酒醸造及び醬油味噌の製造業に従事。札幌区醸造界の権威、西尾長次郎(ニシオ チョウジロウ)の元帳

■桜庭儀作文書 <097/SA>

祖先が明治以前に松前町で町代として活躍した時代から、それ以降、利尻島での漁業経営資料、桜庭儀作(サクラバ ヒササ)の鬼脇村(現・東利尻町)における公私の活躍に関する資料等80点

■桜庭為四郎文書 <097/SA>

館藩、館県、開拓使、函館区、函館県へ奉職。茅部山越郡長も勤めた桜庭為四郎(サクラバ タシロウ 1836-1901)の残した書類、書簡等293点

■佐藤正克文書 <097/SA>

開拓使であった佐藤正克(サトウ マサキ 1849-1906)旧蔵の若干の樺太関連文書を含む文書資料117点

■関場理堂資料 <097/SE>

公立札幌病院長、北辰病院長を歴任。北海道医師会を創立し、大正5(1916)年以来、終生会長として著名な関場不二彦(セキバ フジヒコ 1865-1939 号・理堂)旧蔵資料176点

■渋谷十郎日記 <097/SH>

天保13(1842)年生まれ。慶応4(1868)年、正議隊による松前藩のクーデターに参

加。明治3年館藩函館出張所留守役、明治5年青森県権大属、明治8年開拓使函館会
所学校教員。以後開拓使の職員。明治20年代は、札幌、増毛、根室等で裁判所判事
等を歴任。渋谷十郎（シバジユウ）の明治9（1876）年から大正7（1918）年までの
日記。

■代田文庫 <097/SH>

古書店経営の傍ら北方出版社を創立した代田茂（シタ シゲル 1897-1954）が収集した
農業・文学・児童書などの資料517点。昭和20年代前半の本道出版界の実態を証言
する貴重な資料群

■田辺朔郎鉄道資料 <097/TA>

元東京大学教授であり、琵琶湖疎水工事の企画・設計・指導にあたった田辺朔郎（タ
ハシ ヲウ 1861-1944）が、後に北海道鉄道敷設部技師となり、道庁で活躍した際に
収集・作成した資料102点

■田中正右衛門文書 <097/TA>

函館の大問屋・大津屋を営んでいた田中家の文書72点。初代正右衛門（シウエモン）は
文化5年に箱館へ。2代正右衛門は漁業、開墾、商業で財をなした。北海道の経済・
漁業史の研究素材として貴重

■寺田省婦資料 <097/TE>

寺田省婦（テラ セイ）は安政4（1857）年生まれ。明治23（1890）年、釧路小学校長。
明治25（1892）年、小樽の北辰社主幹。その後小樽区会議員、多数の会社の重役、
代議士、政友会北海道支部長等を務めた。

■梅沢家資料 <098/U>

岩内町梅沢商店関係資料45点。明治30年代から昭和8（1933）年

■渡辺家文書 <098/W>

檜山郡汐吹村（現・上ノ国町）に漁場を所有して漁業に従事した渡辺崎右衛門の、天
明5（1785）年から昭和6（1931）年までの文書類203点。漁業関係の契約書、借用
証、書簡などが大半

■山田文庫 <099/Y>

明治7（1874）年、北海道最初の屯田兵として福島県会津から琴似兵村に移住し、日
清・日露戦争にも加わった山田貞介（ヤマダ テイスケ 1854-1923）とその子息で道庁農
業技師の山田勝伴（ヤマダ ヨシトモ 1878-1946）の父子2代にわたる旧蔵資料4,088点。
貞介のものは来簡2,127通

■安田徳治関係資料 <099/Y>

開拓使紡績所の貸下げを受け、安田紡績所を開設した安田徳治（ヤスタ トクジ）関係資
料249点

■梅木文庫 <680/U>

北海道交通史の研究者として知られ、『北海道鉄道百年史』の編纂に当たった梅木通
徳（ウメキ ミチノリ 1902-1981）が長年にわたって収集した北海道交通史に関する3,488
点の図書及びパンフレット等

■久保寺逸彦資料 <M390~M404 ほか>

言語学者・民族学者の久保寺逸彦（クボテラ イツヒコ 1902-1971）が昭和9（1934）年から
12（1937）年にかけて、北海道及び旧樺太で録音したアイヌ歌謡・昔話などの音声テ
ープ115本、マイクロフィルム15本など

◀ 主題によるコレクション等 ▶

■ 松下亘著作資料 <081.6/MA>

北海道の文化財研究に生涯を懸けた松下亘（マツタ ワタル 1926-1999）の著作資料 225 点

■ 北海道百年記念資料 <318.2/HO>

明治 2（1868）年に蝦夷地を北海道と改め、開拓使による開拓が始まってより百年の昭和 43（1968）年、様々な記念事業が催された。それらの記録や図書、雑誌記事等 356 点

■ 北方地域終戦史関係資料 <329.23/HO>

総理府がわが国固有領土である北方地域の終戦から引揚げ完了までの実態をまとめ、『北方地域総合実態調査報告書終戦史』全 4 冊（1973～76 年）を取りまとめの際に収集された刊行物など 52 点とオーラルヒストリーのカセット・テープ 76 本

■ 北海道洞爺湖サミット関係資料 <333.66/HO>

平成 20（2008）年 7 月に開催された、第 34 回目にあたる主要国首脳会議、北海道洞爺湖サミットに関する資料 113 点

■ 恵庭事件資料 <393.1/E>

昭和 38～42（1963～1967）年、自衛隊法と憲法との関係をめぐって争われた恵庭事件に関する資料 351 点

■ 長沼事件関係資料 <393.1/NA>

昭和 43（1968）年に勃発した防衛庁による長沼町ナイキ基地建設事件関連の資料約 90 点

■ 有珠山噴火関係資料 <453.8/U>

昭和 52（1977）年及び平成 12（2000）年に噴火した有珠山についての関係資料 118 点（1977 年分）及び 140 点（2000 年分）

■ 歌棄漁業組合関係資料 <661.6719/U>

明治 2（1868）年の国郡画定で成立した歌棄郡に存在した漁業組合の資料 573 点。現在の行政区では寿都町および黒松内町

■ 西武百貨店札幌店（五番館）関連資料 <673.8/G>

平成 21（2009）年 9 月に閉店した札幌の老舗百貨店、五番館関連資料 55 点。情報誌、新聞記事、広告やダイレクトメールのファイル、写真アルバム、お中元カタログ等

■ 殖民軌道 <686.12/HO>

北海道の開拓地に物資を送り込み、生産物を市場に運び出すために敷設された簡易な軌道で、拓殖事業の一環で大正 13（1924）年から着工された「殖民軌道」関係資料 16 点

■ はまなす国体関係資料 <780.69/KO>

北海道で、平成元（1989）年 1 月から 9 月の間、冬・夏・秋の三季にわたる完全国体として開催された、第 44 回国民体育大会に関する資料。道内 25 市 17 町 1 村で、42 競技、4 スポーツ行事を実施

■ 札幌オリンピック冬季大会資料 <780.69/SA>

昭和 47（1972）年 2 月に 11 日間に渡って札幌で開催された札幌オリンピック冬季大会関係資料（図書、雑誌、新聞、ポスター、パンフレット、レコードなど）約 1,000 点

■昭和 62 年度全国高等学校総合体育大会 <780.69/Z>

道内各地で夏・冬あわせて 27 競技に熱戦が展開された高校総体関係資料

■プランゲ文庫雑誌コレクション -北海道関係分- <MF1/1~MF1/641>

第二次世界大戦後、日本を占領した GHQ が資料検閲のため収集、本国に持ち帰った雑誌・新聞コレクション（「プランゲ文庫」）のうち、マイクロフィッシュとして市販された雑誌 13,783 タイトルの中の北海道関係分 641 タイトル。なお、プランゲ文庫は、米国のメリーランド大学図書館が所蔵する日本における占領史研究の第一級資料であると同時に戦後の大衆文化の諸相を現代に伝える資料でもあり、文化史や地方史研究の観点からも高く評価されている。

■プランゲ文庫新聞コレクション -北海道関係分- <M2761~M3359>

上記「プランゲ文庫」のうち、35mm マイクロフィルムとして市販された新聞 18,047 タイトルの中の北海道関係分 1,079 タイトル

《 君先生と北方資料 》

第 2 代・君室長が当館に在籍したのは、昭和 41 年 8 月 1 日から昭和 48 年 3 月 31 日までと、昭和 52 年度の、約 8 年間です。整理係（司書）に始まり、資料課特殊・北方資料係（司書、後に係長）、北方資料室北方資料係（係長、後に室長）を歴任されました。当館に着任した頃は、郷土資料の蔵書も少なく、「六千冊から始まったんだよ。」とよく話していたと、先輩職員から聞きました。当館の江別移転を挟み、当室の胎動期・草創期に、精力的にコレクションの形成に尽力されました。

後に、北海道教育大学の教授であったので、私達は「君先生」と呼んでいました。大学を退官後は研究者として、また当室へもボランティアで来られて、講演会の講師のほか、未整理の貴重な資料の目録作成などにも力を貸してくださいました。当室の職員も世代交代が進み、現職員と先生との直接の関わりは、残念ながらほんの数年のことです。来館された折に、レファレンス（調査相談業務）で行き詰って相談すると、「あの文献を見てごらん」「あの人が専門だから聞いてごらん」と即座に助言が返ってきました。デジタル・ライブラリーの開設準備で相談に乗っていただいたこともありました。

体調を崩され、病の身をおしても、北方資料室を気にかけて書庫で作業されていた姿を思い出します。2008 年に逝去されましたが、もっともっと多くを教えていただきたかった、君先生でした。

北方資料室発行物一覧

<蔵書目録>

	頁数	発行月日
北海道立図書館蔵書目録 第11分冊 北方資料篇1 総記・哲学・歴史	448	昭和54. 2
北海道立図書館蔵書目録 第12分冊 北方資料篇2 社会科学 上	272	55. 2
北海道立図書館蔵書目録 第13分冊 北方資料篇3 社会科学 下・自然科学・工学	391	56. 3
北海道立図書館蔵書目録 第14分冊 北方資料篇4 産業	370	57. 3
北海道立図書館蔵書目録 第15分冊 北方資料篇5 芸術・語学・文学	277	58. 3
北海道立図書館蔵書目録 第16分冊 北方資料篇6 地図・絵ハガキ・写真・視聴覚資料	315	59. 3
北海道立図書館蔵書目録 第24分冊 北方資料篇7 総記・哲学・歴史	332	平成6. 3
北海道立図書館蔵書目録 第25分冊 北方資料篇8 社会科学	395	9. 3
北海道立図書館蔵書目録 第26分冊 北方資料篇9 自然科学・工学・産業	407	10. 3
北海道立図書館蔵書目録 第27分冊 北方資料篇10 芸術・語学・アイヌ資料	338	11. 3

<書誌目録>

	頁数	発行月日
北海道郷土史料展覧会目録－北海道地図の変遷	24	昭和26. 11
北海道関係資料目録	161	40. 6
視聴覚資料目録	16	42
阿部家文書目録	92	43. 8
北海道史誌新刊目録	15	43. 11
山田文庫目録	331	44. 1
佐藤正克文書目録	16	44. 2
北海道市町村部落史誌所在目録	47	45. 2
逐次刊行物目録－道内篇－	176	46. 3
北海道関係旧記一覧	61	46. 3
北越殖民社関係資料目録	55	46. 3
札幌地図史展示目録	5	47. 5
桜庭儀作文書目録	4	47. 7
文学関係資料一覧	26	48. 3
アイヌ関係資料一覧	9	48. 3
札幌オリンピック冬季大会資料目録	56	49. 2
北海道市町村史編集の手引	32	49. 11
所蔵資料にみる北海道の50年回顧展資料目録	27	50. 7
北海道地方新聞所在目録	35	51. 3

	頁数	発行月日
伊達家文書目録	42	昭和51. 8
北海道市町村部落誌所蔵目録	86	平成6. 11
亀田憲司氏収集北海道地方新聞目録	24	7. 10
市町村広報所蔵目録	20	8
北海道立図書館所蔵 長沼事件関係資料目録	25	16. 8
北海道立図書館所蔵 松井愈氏資料目録	18	16. 12
北海道地方新聞所在目録 改訂版	121	19. 3
北海道地方新聞所在目録 改訂第2版	123	21. 3
北海道人物文献目録（明治～戦前期） ※PDF版	687	21. 12

< 定期刊行物 >

	発行月日
北海道図書館郷土資料室月報 第1年第1号～第4号	昭和32. 1～昭和32. 9
北方資料 第1号～第7号	昭和41. 11～昭和42. 10
北の資料 第1号～第123号	昭和47. 7～平成21. 11

≪ 北海道人物文献目録（明治～戦前期） ≫

歴史上の有名人から我が家のルーツ調査まで、人物に関する調査相談は多数寄せられます。当室所蔵の人名録や紳士録等、関連の蔵書は数百冊にも及び、以前はあたりをつけて1冊ずつ丹念に調べるしかなく、随分時間がかかりました。何とか効率よく調査できるツールを作りたい、それが長年の懸案でした。そこで、若い職員が中心となり、当館の図書館ボランティアの方々との協働で、約4年がかりで完成したのがこの目録です。

人名録等を1冊1冊ページを繰りながら、そこに収録されている人物の掲載ページ、名前のヨミ、生没年、肖像の有無等をこつこつ調べてエクセルの表に入力していく。ボランティアの方々の地道な作業の成果は、人物文献50冊に収録されていた約1万人の人物情報データとなりました。職員がそれらを統合・編集、校正し、この目録を平成22年1月から当館ホームページに掲載しています。

知りたい人物が、どの文献のどこに載っているのかが一目で分かります。PDF版ですので、Webページの検索機能を使うと便利です。是非ご活用ください。

『北の資料』掲載記事目録

巻号	掲載記事	発行年月
1号	地方新聞所在調査（その1）	昭和47.7（1972.7）
2号	札幌オリンピック資料紹介 地方新聞所在調査（その2）	昭和47.10（1972.10）
3号	本道地方新聞の収集（佐藤陽一） 地方新聞所在調査（その3）	昭和47.12（1972.12）
4号	資料紹介「河野常吉資料」 地方新聞所在調査（その4） 新収視聴覚資料	昭和48.3（1973.3）
5号	資料紹介「山田文庫」の資料構成 新収視聴覚資料 地方新聞所在調査（その5） 本館継続収集中の新聞紙名一覧	昭和48.6（1973.6）
6号	所蔵マイクロ・フィルム資料について 地方新聞所在調査（その6） 新収視聴覚資料	昭和48.9（1973.9）
7号	特集・48年度収集アイヌ語資料マイクロ・フィルム目録 金田一京助採録ユーカラ・ノート 久保寺逸彦資料 金成マツ筆録ユーカラ・ノート 知里幸恵ノート 鍋沢モトアンレク（元蔵） 萱野よ ね子ノート 鍋沢元蔵遺稿ノート 永久保秀二郎日誌	昭和48.10（1973.10）
8号	資料紹介 この一年の新収資料から （大正測図版北海道五万分一地形図、北海道来住住 戸口表 他） 地方新聞所在調査（その7）	昭和49.3（1974.3）
9号	特集・知里真志保遺稿ノートマイクロ・フィルム目録	昭和49.6（1974.6）
10号	地方新聞所在調査（その8） 新収視聴覚資料	昭和49.8（1974.8）
11号	特集・河野常吉資料目録	昭和49.11（1974.11）
12号	資料紹介 練漁歌の録音 金田一京助氏旧蔵資料の寄贈 地方新聞所在調査（その9） 特集・昭和49年度収集マイクロ・フィルム資料（加賀 家文書、吉川家文書、県立秋田図書館資料、宮城県図 書館資料、仙台市博物館資料） 新収資料のなかから 住友砒業歌志内鉱業所関係資料	昭和50.3（1975.3）
13号	資料紹介 河野常吉氏稿「北海道史通説第二・第三」 地方新聞所蔵調査（その10） 新収視聴覚資料	昭和50.6（1975.6）

巻号	掲載記事	発行年月
14号	資料紹介 吉田巖遺稿資料	昭和50.9 (1975.9)
15号	資料紹介 漁場実測図 土地改良工事及土功組合関係調査報文	昭和50.12 (1975.12)
16号	資料紹介 田辺朔郎鉄道資料 北海道庁公文録区画地無償有償貸付 札幌競馬場資料	昭和51.3 (1976.3)
	追加目録 河野常吉資料 札幌オリンピック資料	
	北越殖民社関係資料	
	新収視聴覚資料	
17号	資料紹介 関場理堂資料 一条忠郎資料	昭和51.6 (1976.6)
18号	資料紹介 屯田兵村図 北海道市町村制施行書類	昭和51.9 (1976.9)
	戦後村を町とする関係書類 北方海図集	
	新収視聴覚資料	
19号	北方地域終戦史関係資料、雑誌紹介 太湖、北方海図集	昭和51.12 (1976.12)
	新収視聴覚資料	
20号	恵庭事件関係目録	昭和52.3 (1977.3)
21号	久保寺逸彦収録アイヌ歌謡テープ目録	昭和52.6 (1977.6)
22号	資料紹介 殖民軌道	昭和52.9 (1977.9)
23号	資料紹介 NHK北海道本部収録スライド一覧表	昭和52.12 (1977.12)
24号	資料紹介 「1977年有珠山噴火」「宗谷教育関係資料」	昭和53.3 (1978.3)
	新収視聴覚資料	
25号	昭和52年度に新しく受け入れた逐次刊行物一覧	昭和53.6 (1978.6)
	「1977年有珠山噴火」追加資料	
26号	資料紹介 地域別地図目録その1 北海道全図	昭和53.9 (1978.9)
	新収視聴覚資料	
27号	資料紹介 地域別地図資料その2 道北地方 根釧地方	昭和53.12 (1978.12)
28号	資料紹介 地域別地図資料その3 十勝 上川 留萌	昭和54.2 (1979.2)
29号	資料紹介 地域別地図資料その4 空知 石狩	昭和54.6 (1979.6)
	新収視聴覚資料	
30号	資料紹介 地域別地図資料その5 日高 胆振 後志 檜山 渡島 周辺地域	昭和54.9 (1979.9)
	新収視聴覚資料	
31号	資料紹介 地域別地図資料その6 古地図 特殊図 その他	昭和54.12 (1979.12)
	新収視聴覚資料	
	資料紹介 第2回NHK北海道本部収録スライド一覧表	
32号	資料紹介 福島屋文書	昭和55.3 (1980.3)
	後志興農株式会社資料	
33号	資料紹介 村岡文庫資料	昭和55.6 (1980.6)
	絵はがき その1 全道篇	

巻号	掲載記事	発行年月
34号	資料紹介 絵はがき その2 地方別篇（宗谷・網走・根室・釧路・十勝・上川・留萌・空知）	昭和55.12（1980.12）
	新収視聴覚資料	
35号	資料紹介 絵はがき その3 地方別篇（石狩・日高・胆振・後志・檜山・渡島・樺太）	昭和56.3.25（1981.3.25）
36号	特集 林家文書目録	昭和56.3.31（1981.3.31）
37号	資料紹介 桜庭為四郎文庫	昭和56.6（1981.6）
38号	資料紹介 渡辺家文書	昭和56.9（1981.9）
39号	資料紹介 視聴覚資料の収集	昭和56.12（1981.12）
	航空写真の収集	
40号	資料紹介 この一年の新収資料から	昭和57.3（1982.3）
41号	昭和53年以降に受け入れた市町村史誌 その1	昭和57.6（1982.6）
42号	昭和53年以降に受け入れた市町村史誌 その2	昭和57.9（1982.9）
43号	地域別機関・団体史誌 その1 宗谷 網走 根室	昭和57.12（1982.12）
44号	地域別機関・団体史誌 その2 釧路 十勝 上川 留萌	昭和58.3（1983.3）
45号	地域別機関・団体史誌 その3 空知 石狩（除く札幌市）	昭和58.6（1983.6）
46号	地域別機関・団体史誌 その4 日高 胆振 後志	昭和58.9（1983.9）
47号	地域別機関・団体史誌 その5 檜山 渡島 周辺地域	昭和58.12（1983.12）
48号	道内研究機関・大学の紀要 その1	昭和59.3（1984.3）
49号	道内研究機関・大学の紀要 その2	昭和59.6（1984.6）
50号	昭和53年以降に受け入れた市町村史誌 その3	昭和59.9（1984.9）
51号	北の人名録 その1 教育関係篇	昭和60.1（1985.1）
52号	北の人名録 その2 地方篇	昭和60.3（1985.3）
53号	資料紹介 所蔵旧記資料の紹介	昭和60.6（1985.6）
54号	本道の地方史研究団体とその機関誌の紹介（1） - 黎明期より戦後初期までに発行された機関誌5誌の総目録を通して -	昭和60.9（1985.9）
55号	本道の地方史研究団体とその機関誌の紹介（2） - 黎明期より戦後初期までに発行された機関誌5誌の総目録を通して -	昭和60.12（1985.12）
56号	資料紹介 所蔵旧記資料の紹介（2）	昭和61.3（1986.3）
58号	資料紹介 道内郷土史研究会と機関誌・研究誌紹介	昭和62.3（1987.3）
59号	資料紹介 所蔵旧記資料の紹介（3）	昭和62.6（1987.6）
61号	北海道市販雑誌カタログ	昭和62.12（1987.12）
62号	資料紹介 所蔵旧記資料の紹介（4）	昭和63.3（1988.3）
	新収視聴覚資料	
63号	特集 昭和62年度全国高等学校総合体育大会	昭和63.6（1988.6）
64号	資料紹介 所蔵旧記資料の紹介（4）	昭和63.9（1988.9）
65号	資料紹介 所蔵旧記資料の紹介（5）	昭和63.12（1988.12）
66号	資料紹介 所蔵旧記資料の紹介（6）	平成元.3（1989.3）

巻号	掲載記事	発行年月
68号	資料紹介 所蔵旧記資料の紹介 (7)	平成2.9 (1990.9)
70号	新収視聴覚資料	平成3.2 (1991.2)
80号	「回想の樺太展」展示目録	平成6.9 (1994.9)
81号	「小説のなかの北の人」	平成6.12 (1994.12)
82号	視聴覚資料	平成7.3 (1995.3)
87号	伊達家文書目録 (その2)	平成8.6 (1996.6)
93号	視聴覚資料	平成10.2 (1998.2)
(以下100号まで新収資料目録のみ)		
101号	『北の資料』掲載記事目録1~100	平成12.3 (2000.3)
102号	特集・北海道の鳥瞰図一覧	平成12.7 (2000.7)
103号	特集・『北海道立志編』目次 平成12年度受入図書紹介 (解説)	平成12.12 (2000.12)
104号	2000年1月以降の新収雑誌目録 開架新聞紹介	平成13.3 (2001.3)
105号	北方資料参考図書解説目録 1 総記・哲学・宗教編	平成13.7 (2001.7)
106号	北方資料参考図書解説目録 2 人物文献編	平成13.12 (2001.12)
107号	北方資料参考図書解説目録 3 歴史・地理編	平成14.3 (2002.3)
108号	2000年有珠山噴火関係資料目録	平成14.7 (2002.7)
109号	北方資料参考図書解説目録 4 アイヌ資料編	平成14.12 (2002.12)
110号	北方資料児童書目録	平成15.3 (2003.3)
111号	北方資料参考図書解説目録 5 芸術・言語・文学編	平成15.7 (2003.7)
112号	北方資料参考図書解説目録 6 統計書 - 社会科学 -	平成15.12 (2003.12)
113号	プランゲ文庫雑誌目録 北海道関係分地域別リスト	平成16.3 (2004.3)
114号	北方資料参考図書解説目録 7 自然科学編	平成16.8 (2004.8)
115号	北方資料参考図書解説目録 8 技術編	平成17.2 (2005.2)
116号	プランゲ文庫新聞目録 北海道関係分	平成17.12 (2005.12)
117号	林家文書追加目録	平成19.3 (2007.3)
118号	道内市町村勢要覧等目録	平成19.3 (2007.3)
119号	松下亘著作資料目録・屯田兵資料目録	平成20.2 (2008.2)
120号	北海道立図書館江別移転40周年記念講演会記録「資料で語る北海道の歴史」	平成20.3 (2008.3)
121号	阿部家文書目録 (マイクロフィルム版及びDVD版)	平成21.1 (2009.1)
122号	川島専三資料目録	平成21.9 (2009.9)
123号	歌棄漁業組合関係資料目録	平成21.11 (2009.11)

『北海道立図書館報』掲載 北方資料関連情報

《寄稿・講演要旨・人物紹介など》

No.	記事名	号	頁	刊行年月	掲載欄
1	わたしの地方史 渡辺茂	72	3～6	1973. 3	地方史漫談
2	郷土資料室から北方資料室へ 渡辺茂	81	19	1975. 7	各地からの便り
3	私の函館記 越崎宗一	85	3～6	1976. 9	依頼原稿
4	行政資料の収集と保存について	88	3～6	1977. 6	依頼原稿
5	簡単な文献複写の方法 桑島洋一	94	3～6	1978. 12	依頼原稿
6	明治期北海道図書館の素描 藤島隆	90	3～6	1977. 12	依頼論文
7	パンフレットの収集と利用 大館光男	95	3～6	1979. 3	依頼論文
8	北海道に文書館を 山川精	98	3～6	1979. 12	論評
9	明治期北海道の貸本屋－富貴堂と独立社を中心に－ 藤島隆	99	3～6	1980. 3	エッセイ
10	函館文庫と堀達之助 長谷川誠一	97	3～8	1979. 10	研究論文
11	函館文庫と堀達之助（続） 長谷川誠一	103	3～6	1981. 6	研究論文
12	カナダ・アメリカの北海道史料について 関秀志	109	3～6	1982. 12	海外レポート
13	明治30年から明治80年の札幌を占う 木田橋喜代慎 （※札幌の図書館ほかの事情）	111	3～6	1983. 7	論文
14	県民性 館長片岡允	112	2	1983. 10	にれ
15	紅スズラン考 阿部敏夫	134	2	1992. 3	にれ
16	「創造学園31塾」生涯学習（講座）より （※北方資料部職員が講師をつとめた講座について、参加者佐藤梅子さんの感想）	188	9	2010. 3. 24	トピックス
17	外国人の見た幕末の北海道（高倉新一郎講演）	61	4～8	1970. 1	S44全公図研究集会講演
18	北の風土と文学－昭和58年度北日本児童奉仕研究大会講演より－ 加藤多一	112	3～6	1983. 10	講演要旨
19	北方文化のある側面－昭和59年北日本図書館長会議 藤本英夫	117	3～6	1984. 12	講演要旨
20	北海道立図書館江別移転40周年記念講演会 「資料で語る北海道の歴史」	184	6	2008. 2	－
21	郷土史に関する資料蒐集の一例（故木村誠一氏）	62	11	1970. 5	人物紹介
22	関矢まり子氏と「野幌部落史」の周辺（関矢まり子氏）	64	16	1971. 1	人物紹介
23	供野外吉氏と空知集治監の研究（供野外吉氏）	65	12～13	1971. 4	人物紹介
24	アッカベツの考古学者（栗沢喜重郎氏）	67	14～15	1971. 11	人物紹介
25	新聞切り抜きにかけた生涯 豊岡朝美氏	77	13	1974. 6	人物紹介
26	十勝沖地震後の取組みについて 静内町図書館	178	2	2004. 3	道内図書館紹介

《資料に関すること》

No.	記事名	号	頁	刊行年月	掲載欄
1	山田家文庫	59	3	1968. 1	資料紹介
2	阿部家文書の特色について	60	6	1969. 8	－
3	第3期北海道総合開発	63	12～13	1970. 9	所蔵資料紹介
4	北方領土問題関係資料	64	12～13	1971. 1	所蔵資料紹介
5	有珠善光寺資料並びに伊達町開拓記念館所蔵資料のマイクロ化を終えて	65	14～15	1971. 4	収集資料紹介

No.	記事名	号	頁	刊行年月	掲載欄
6	田中正右衛門文書	67	8~10	1971. 11	所蔵資料紹介
7	道立図書館で利用できる北海道を主題にした児童文学書	68	8~9	1972. 3	所蔵資料紹介
8	北海道統計書の紹介	70	4~5	1972. 9	所蔵資料紹介
9	北海道市町村史編さん状況調査を終えて	72	8~10	1973. 3	所蔵資料紹介
10	本館所蔵の視聴覚資料について	74	8~9	1973. 9	所蔵資料紹介
11	道内の逐次刊行物のうちから一地方文芸総合誌と川柳誌について一	76	8~9	1974. 3	所蔵資料紹介
12	地図のなかから一明治以降の北方の地勢図・地形図について一	78	8~9	1974. 9	所蔵資料紹介
13	道内の戦前の市町村勢要覧	80	8~9	1975. 3	所蔵資料紹介
14	北海道の文学の流れを理解するように	83	9~10	1976. 3	所蔵資料紹介
15	道内の郷土資料目録	85	8~9	1976. 9	所蔵資料紹介
16	所蔵逐次刊行物に見る北海道の教育	87	10~11	1977. 3	所蔵資料紹介
17	なつかしい殖民軌道	89	6~7	1977. 9	所蔵資料紹介
18	市町村別の人口	91	8~9	1978. 3	所蔵資料紹介
19	北海道を主題にした児童文学書	95	8~9	1979. 3	所蔵資料紹介
20	本館の視聴覚資料について	97	10~11	1979. 1	所蔵資料紹介
21	屯田兵関係資料について	99	8~9	1980. 3	所蔵資料紹介
22	余市運上家・林家文書	101	8~9	1981. 1	所蔵資料紹介
23	開拓使出版物資料について	103	8~9	1981. 6	所蔵資料紹介
24	道内自治体発行の叢書と市（町）民文芸誌	105	8~9	1982. 1	所蔵資料紹介
25	北海道史関係資料	107	8~9	1982. 6	所蔵資料紹介
26	樺太史関係資料	109	8~9	1982. 12	所蔵資料紹介
27	樺太庁統計書と国勢調査報告書	111	8~9	1983. 7	所蔵資料紹介
28	樺太の逐次刊行物	113	8~9	1984. 2	所蔵資料紹介
29	アイヌ無形文化財記録映画	115	8~9	1984. 7	所蔵資料紹介
30	北海道の豆本	117	8~9	1984. 12	所蔵資料紹介
31	明治以前に書かれた文書資料の中から	119	16~17	1986. 1	所蔵資料紹介
32	北の伝記書一伝記書を通してみた北の人々一(1)	122	8~9	1987. 1	所蔵資料紹介
33	北の伝記書一伝記書を通してみた北の人々一(2)	123	10~11	1988. 3	所蔵資料紹介
34	北の伝記書一道史に登場する北の人々一(3)	125	10~11	1989. 7	所蔵資料紹介
35	北の伝記書一伝記書を通してみた北の人々一(3)	127	4~5	1990. 6	所蔵資料紹介
36	北の伝記書一伝記書を通してみた北の人々一(4)	129	4~5	1991. 1	所蔵資料紹介
37	北の伝記書一伝記書を通してみた北の人々一(5)	131	4~5	1991. 7	所蔵資料紹介
38	北の伝記書一伝記書を通してみた北の人々一(6)	133	4~5	1991. 12	所蔵資料紹介
39	北の伝記書一伝記書を通してみた北の人々一(7)	135	4~5	1992. 6	所蔵資料紹介
40	北の伝記書一伝記書を通してみた北の人々一(完)	137	4~5	1992. 12	所蔵資料紹介
41	ふるさとの絵本	139	4~5	1993. 7	所蔵資料紹介
42	写真で見る「市町村史」	141	4~5	1993. 12	所蔵資料紹介
43	1993年に起きた二つの大地震～釧路沖地震と北海道南西沖地震～	143	4~5	1994. 6	所蔵資料紹介
44	小説の中の北の人（抄）	145	8~9	1994. 12	所蔵資料紹介

No.	記事名	号	頁	刊行年月	掲載欄
45	地震資料再びー釧路沖地震・北海道南西沖地震・北海道東方沖地震ー	147	6~7	1995. 6	所蔵資料紹介
46	自分史関係資料ーあなたの物語（ドラマ）を教えてくださいー	149	7~8	1995. 12	所蔵資料紹介
47	北海道の地方新聞<戦前編>ーマイクロフィルム資料からー	151	6~7	1996. 6	所蔵資料紹介
48	義経は本当に北海道に渡ったのか	153	10~11	1996. 12	所蔵資料紹介
49	アイヌ新法成立ーアイヌ民族関連の逐次刊行物ー	155	6~7	1997. 6	所蔵資料紹介
50	漫画で綴る北の物語	157	6~7	1998. 1	所蔵資料紹介
51	北海道の地方新聞<戦後編及び追補版>ーマイクロフィルム資料からー	159	6~7	1998. 6	所蔵資料紹介
52	北海道に移り住むー当世移住事情ー	161	6~7	1998. 12	所蔵資料紹介
53	当世北方地図事情 その1 ~海の地図編~	163	6~7	1999. 6	所蔵資料紹介
54	北方カルチャーへようこそ！~北海道発・戦後の創刊雑誌~	165	6~7	1999. 12	所蔵資料紹介
55	雑誌資料にみる追悼特集	168	8~9	2000. 12	所蔵資料紹介
56	366日 ~今日は何の日？~（※一般資料中心、北方資料も紹介）	169	8~9	2001. 3	所蔵資料紹介
57	木に遊び、イモに遊ぶ ~木版画と薯（いも）版画でみる北海道~	170		2001. 7	所蔵資料紹介
58	砂金掘り物語	172	8~9	2002. 3	所蔵資料紹介
59	逐次刊行物で見る北海道最新データ	174	8~9	2002. 12	所蔵資料紹介
60	明治期雑誌コレクションー北海道で生まれた創刊雑誌の黎明期ー	176	8~9	2003. 7	所蔵資料紹介
61	北海道の地方新聞<戦前編及び戦後編の追補版>ーマイクロフィルム資料からー	178	6~7	2004. 3	所蔵資料紹介
62	デジタル画像で閲覧出来る明治期刊行北方資料について	182	10~11	2007. 3	所蔵資料紹介
63	山田文庫 屯田兵資料	184	10~11	2008. 2	所蔵資料紹介
64	『西南戦役従軍記録』（55冊）	187	6	2009. 7	所蔵資料紹介
65	西武百貨店札幌店（五番館）関連資料	188	13	2010. 3. 24	所蔵資料紹介
66	資料による歴史散歩ー幌内鉄道敷地並用地図（当館所蔵）から	72	7	1973. 3	ー
67	特報！プランゲ文庫マイクロフィッシュ版がはいりました！	168	9	2000. 12	ー
68	北方資料室所蔵『知里幸恵ノート』について	189	2	2010. 7. 23	ー
69	北海道の資料収集計画5ヵ年のまとめ（君尹彦）	66	8~9	1971. 8	ー

《レファレンスに関すること》

No.	記事名	号	頁	刊行年月	掲載欄
1	ジャガイモは原産地ではなんというか、さびたとはいどんな木か	61	13	1970. 1	レファレンス
2	場所請負人について知りたい	62	10	1970. 5	レファレンス
3	札幌競馬場の沿革と面積を知りたい	62	10	1970. 5	レファレンス
4	本道の鉄道の歴史について知りたい。又本道の鉄道につき、道立図書館にある資料を紹介してほしい	64	14	1971. 1	参考事務から
5	近年、北海道においても公害の話題がきかれるようになってきているが、本道の公害関係資料を紹介してほしい	66	11	1971. 8	レファレンスコーナー

No.	記事名	号	頁	刊行年月	掲載欄
6	北海道の民話・方言－伝説、方言、催しものについて調べたい	67	7	1971. 11	レファレンスコーナー
7	えりも岬におけるイナゴの大群襲来、およびその時期と被害状況・植生状況について。また、石狩におけるイナゴの大群襲来の時期はいつか	68	14	1972. 3	レファレンス・コーナー
8	「断熱住宅の暖房設備の選び方」（鈴木憲三 北方圏住宅研究会）は所蔵しているか。	148	5	1995. 10	レファレンスあれこれ
9	吉田十四雄の「りんきの村」を所蔵しているか。	148	5	1995. 10	レファレンスあれこれ
10	「寛文9年における蝦夷反乱の一局画」（藤村久和著）を所蔵しているか。	150	3	1996. 3	レファレンスあれこれ
11	釧路湿原に関する資料には、どのようなものがあるか。	150	3	1996. 3	レファレンスあれこれ
12	アイヌの祭儀の一つで、ヒシの実を採る時に行われる儀式があるが、その様子を写しているフィルムはあるか。	152	6	1996. 9	レファレンスあれこれ
13	一説によると、松浦武四郎がつけた「北海道」の命名のきっかけとなった場所があるらしいが、何処か、またその根拠となる資料はあるか。	152	6	1996. 9	レファレンスあれこれ
14	北海道で最も古い校歌はどこかの学校の校歌か。	152	7	1996. 9	レファレンスあれこれ
15	「チャンチャン焼き」の語源を知りたい。	154	4	1997. 3	レファレンスあれこれ
16	「ザンギ」の語源を知りたい。	154	4	1997. 3	レファレンスあれこれ
17	「トバ」の語源を知りたい。	154	4～5	1997. 3	レファレンスあれこれ
18	北海道で最初に練漁を行った馬之助の実績がわかる資料はあるか。	156	4	1997. 11	レファレンスあれこれ
19	ジンギスカン（鍋）の名称は誰が考え出したのか。	156	4	1997. 11	レファレンスあれこれ
20	クラーク博士が言った「Boys, be ambitious」その後続く言葉を知りたい。	156	5	1997. 11	レファレンスあれこれ
21	「三平汁」の由来について	158	4	1998. 3	レファレンスあれこれ
22	「ヤリキレナイ川」のアイヌ語の由来について	158	4～5	1998. 3	レファレンスあれこれ
23	大雪山の正しい読み方。また、「大雪山系」、「富良野大雪リゾート」というような時は、読み方は変化するか。	160	4～5	1998. 9	レファレンスあれこれ
24	明治21年から23年に、釧路から網走までを受刑者によって開削した釧路道路について	162	4～5	1999. 3	レファレンスあれこれ
25	「吉田巖日記」の中に「蝦夷境界図考」（明治39年頃刊行らしい）なる書名が出てくる。どういう資料か知りたい。	164	4	1999. 10	レファレンスあれこれ
26	エゾキスミレの咲くMt. Shigaは、日高山脈のどこにあるのか	164	4	1999. 10	レファレンスあれこれ
27	北海道の銭湯に関する資料展示をしたい。どんな資料がどれ位あるか。	164	5	1999. 10	レファレンスあれこれ
28	北海道の地名で「冬窓床」の正しい読み方について	166	4	2000. 3	レファレンスあれこれ
29	昭和初期のころに宗谷線のオサシマ駅の駅長さんをしておられたA氏は何代目の駅長さんにあたるのか？	166	4～5	2000. 3	レファレンスあれこれ
30	現在までに開通した北海道内の高速道路に関する区間毎の開通年の一覧を見たい	166	5	2000. 3	レファレンスあれこれ
31	北海道の七夕が本州とはひと月遅れの8月7日に行われるのは何故か	167	6	2000. 7	レファレンスあれこれ

No.	記事名	号	頁	刊行年月	掲載欄
32	明治45年、白瀬中尉の南極探検に同行した樺太アイヌ花森信吉さんの、探検後の消息	167	6~7	2000. 7	レファレンスあれこれ
33	雑誌記事の所蔵調査	167	7	2000. 7	レファレンスあれこれ
34	昭和59年から平成2年までの旭川竜谷高校、函館有斗高校の春季北海道高等学校野球大会、全国高等学校野球選手権大会、秋季北海道野球選手権大会のメンバー表、試合結果を地方新聞から複写して欲しい。	169	6	2001. 3	レファレンスあれこれ
35	北海道初の女性校長誕生に関する記事、及びその人物に関する資料について。	169	6~7	2001. 3	レファレンスあれこれ
36	長田幹彦著の「続金色夜叉」について、なぜ著者は、北海道の置戸町を舞台に、尾崎紅葉の「金色夜叉」の続編を書いたのか？理由を知りたい。	171	6	2001. 12	レファレンスあれこれ
37	「北鳴学校紀事」（明28刊）に「布施現之助」という生徒が”生徒の証言”として書いたものの中に、新渡戸博士の倫理として「コゝダナー」という言葉が出てくる。その意味を知りたい。	171	6~7	2001. 12	レファレンスあれこれ
38	与謝野晶子が「ミホトケノ」で始まる歌を洞爺湖で残したというが、道立図書館所蔵の「北海遊艸（ホッカユウソウ）」に載っているか？	173	6	2002. 7	レファレンスあれこれ
39	昭和30年に北海道教育委員会から刊行された『アイヌの古式舞踊—釧路地方—』という更科源蔵氏が書いた図書を探している。	173	7	2002. 7	レファレンスあれこれ
40	「カバノアナタケ」の効果、服用方法などがわかる資料について	175	4	2003. 3	レファレンスあれこれ
41	道東の地名「東梅」について、その由来	175	4~5	2003. 3	レファレンスあれこれ
42	「エゾノヒツジグサ」に関する写真集・エッセイなどはあるか	175	5	2003. 3	レファレンスあれこれ
43	カラスガイは北海道に生息しているか？	177	6	2003. 12	レファレンスあれこれ
44	明治40年1月の函館新聞を見たい。どこかで所蔵していないか	177	6~7	2003. 12	レファレンスあれこれ
45	伊達保子について	177	7	2003. 12	レファレンスあれこれ
46	又、いくたびの「我等が愛する北海道」	179	5	2004. 12	レファレンスあれこれ
47	深川西高校のあゆみ会事件について	179	5~6	2004. 12	レファレンスあれこれ
48	地元図書館の詳細な目録に助けられ…	183	6	2007. 10	レファレンスあれこれ
49	困った時のお役立ちツール、パンフレット	183	6~7	2007. 10	レファレンスあれこれ
50	道内35市の市長の給料および退職金の一覧で、新しいものが見たい	183	7	2007. 10	レファレンスあれこれ
51	墨塗り？その下には何が？	186	11	2009. 3. 27	レファレンスあれこれ
52	実業家の足跡とデジタルライブラリー	186	12	2009. 3. 27	レファレンスあれこれ

《カウンター雑記》

No.	記事名	号	頁	刊行年月	掲載欄
1	純粋なアイヌの人口、アイヌ人の混血事情、アイヌの義務教育の普及率、ほか	59	5	1968. 1	
2	〔原田康子の著作について〕	69	7	1972. 6	
3	〔北方資料のレファレンス傾向〕	70	10	1972. 9	
4	〔昭和22年の江戸開拓団〕	71	7	1972. 12	

No.	記事名	号	頁	刊行年月	掲載欄
5	〔学校の歴史、開設についての照会（小樽市立量徳小学校）〕	72	10	1973. 3	
6	〔われらが愛する北海道〕	73	7	1973. 6	
7	〔地名〕あしのしま たこのくび しやきん	74	7	1973. 9	
8	“ハスカップって一体どんな植物ですか” （※一般閲覧室）	75	7	1973. 12	
9	〔あしにしま たこのくび しやきん、天気のことわざ〕	75	7	1973. 12	
10	〔樺太の古地図〕	77	7	1974. 6	
11	三つの北門新報	78	7	1974. 9	
12	駅逡所の廃止	80	7	1975. 3	
13	レファレンスの難しさ 〔不能レファレンス3件 一巳村の村会議員、岩手県出身者上田寅次郎、昭和8～11年の飛行機墜落の新聞記事〕	82	7	1975. 12	
14	〔最近のレファレンス〕	83	8	1976. 3	
15	郷土読本の編集	84	7	1976. 6	
16	北方領土をめぐって	85	7	1976. 9	
17	〔北海道初期の地方新聞〕	86	7, 13	1976. 12	
18	複写と著作権	87	9	1977. 3	
19	困惑2題〔「あたらしい稚内」、「享和元酉年取極御用地箱館松前城下江指干鮑直増割合書付元帳」〕	88	7	1977. 6	
20	有珠岳から有珠山へ	89	5	1977. 9	
21	「北緯50度詩集」について	90	7	1977. 12	
22	人力車のことなど	91	7	1978. 3	
23	資料探索のために 〔※件名目録をつくりたい〕	92	8	1978. 6	
24	「遠星北斗の生年月日のことなど」	93	3	1978. 9	
25	レファレンスツールと蔵書目録	94	7	1978. 12	
26	ふたたび北方領土をめぐって	95	7	1979. 3	
27	利用者と職員の接点 〔※剣淵の屯田兵入植〕	96	7	1979. 6	
28	フレイザー先生のこと 〔※阿部家文書〕	97	9	1979. 10	
29	難問に音を上げる 〔※北海道百人一首、生願寺村、青松葉事件〕	98	7	1979. 12	
30	道外からのレファレンスについて 〔※赤穂義士、古銭遺跡・砂金関係資料〕	99	7	1980. 3	
31	宿題の答えなど	100	13	1980. 7	
32	複写サービスにおもう	101	7	1981. 1	
33	レファレンサーの専門化 〔※錨〕	102	7	1981. 3	
34	文書（もんじょ）の整理について 〔※林家、桜庭、渡辺家〕	103	7	1981. 6	
35	急がれる総合目録の作成 〔※自動車取締規則〕	104	7	1981. 9	
36	北方資料の総合書名索引について	105	7	1982. 1	
37	道産子ことば	106	9	1982. 3	
38	視聴覚資料のこと	107	7	1982. 6	
39	地域新聞あれこれ	108	7	1982. 10	

No.	記事名	号	頁	刊行年月	掲載欄
40	図書館と研究者と収集と（※村上島之允がらみ旧記）	109	7	1982. 12	
41	「図書館」って何だろう…（※大量複写）	110	7	1983. 3	
42	津波と養殖	111	7	1983. 7	
43	雑誌を前にして（※雑誌記事索引、地方研究誌）	112	7	1983. 10	
44	蔵書目録と第2書庫	113	7	1984. 2	
45	未来の図書館像（※視聴覚資料）	114	7	1984. 3	
46	都市史と郷土史	115	7	1984. 7	
47	北海道の“鉄道唱歌”	116	7	1984. 10	
48	寄贈による図書館	117	7	1984. 12	
49	カード目録あれこれ	118	7	1985. 3	
50	樺太新聞	119	11	1986. 1	
51	資料の出典をさぐる（※赤心社）	120	10	1986. 3	
52	季節のレファレンスから（七夕、ろうそくもらい）	122	4	1987. 10	
53	雑誌を捜して（※アイヌの熊猟の弓矢）	123	9	1988. 3	
54	百聞はビデオに如かず	124	9	1989. 3	
55	マイクロリーダープリンタ	125	9	1989. 7	
56	学術雑誌総合目録新版のこと	126	7	1990. 3	
57	常連さんのこと（※競馬予想、住宅地図ほか）	127	3	1990. 6	
58	古い絵ハガキと写真	128	3	1990. 9	
59	図書館と複写	129	3	1991. 1	
60	アイヌの狸まつり?!? ～続・百聞はビデオに如かず～	130	11	1991. 3	
61	展示のこと	131	3	1991. 7	
62	社会教育二題（※走る公民館、スクエアダンスのニプロ氏）	132	3	1991. 9	
63	1991年のこと	133	3	1991. 12	
64	郷土資料としての行政資料	134	3	1992. 3	
65	カウンターつれづれ	135	3	1992. 6	
66	収書は高利回り貯蓄?（※ミニコミ紙、札幌版出版物）	136	4	1992. 9	
67	地方史研究家のこと（※下国東七郎調べ）	137	3	1992. 12	
68	四年生君（※寿都鉄道調べ）	138	3	1993. 3	
69	ハマナシの花	139	3	1993. 7	
70	寄贈してくださった方など	140	3	1993. 10	
71	北方資料室症候群	141	3	1993. 12	
72	お気軽にどうぞ（※カウンターレファレンス）	142	3	1994. 3	
73	樺太展によせて	143	3	1994. 6	
74	カウンター雑記はえらい!（※カウンター雑記索引）	144	4	1994. 9	
75	「サハリンに資料調査へ」というユメ	146	6	1995. 3	
76	「自分史のすすめ」	148	6	1995. 10	
77	「雪の遺書」について	150	4	1996. 3	

No.	記事名	号	頁	刊行年月	掲載欄
78	あちらをたてれば、こちらがたたず (※利用と保存)	152	7	1996. 9	
79	30年後の今	154	5	1997. 3	
80	オリンピックふたたび	156	5	1997. 11	
81	便利なのはよいけれど… (※携帯電話のマナー)	158	5	1998. 3	
82	地方新聞あれこれ	160	4	1998. 9	
83	地図資料などについて	162	5	1999. 3	
84	「個人貸出し」について思うこと	164	5	1999. 10	
85	「小さな探検家」 (※小学生のカウンター利用者)	166	5	2000. 3	
86	「情報の重み」	168	10	2001. 12	
87	北方資料室症候群 その2	170	8	2001. 7	
88	北海道の“MANGA”	172	7	2002. 3	
89	資料を集めるということ	174	7	2002. 12	
90	Time Voyager	176	7	2003. 7	
91	北方資料室症候群 その3 (※ルーツ調査ほか)	178	5	2004. 3	
92	「新しい地名・残る地名・消える(?)地名」	182	9	2007. 3	
93	カウンターに立って思うこと	184	9	2008. 2	

《表紙写真》

No.	記事名	号	頁	刊行年月	掲載欄
1	オリンピック資料	72	1	1973. 3	
2	丸瀬布町における第2回古文書解読講座から	79	1	1974. 12	
3	昭和58年度第1回古文書解読講座開設 (※『箱館日記』)	111	1	1983. 7	
4	“雑誌に見る石狩川展” (※展示)	128	1	1990. 9	
5	学び舎の記念誌展 (※展示)	131	1	1991. 7	
6	ふるさとの絵本展	139	1	1993. 7	
7	「いい湯だな北海道 -北の温泉考-」展 (※展示)	141	1	1993. 12	
8	「北海道移住手引草」	145	1	1994. 12	
9	特色ある資料 5 「北海詠草」	147	1	1995. 6	
10	特色ある資料 7 「沙流アイヌ歌謡」	149	1	1995. 12	
11	特色ある資料 9 「野人の叫び」	151	1	1996. 6	
12	特色ある資料 11 「蝦夷漫画」	153	1	1996. 12	
13	特色ある資料 13 「北海道漁業図譜」	155	1	1997. 6	
14	特色ある資料 15 「札幌オリンピック冬季大会資料」	157	1	1998. 1	
15	特色ある資料 17 「蝦夷島奇観」	159	1	1998. 6	
16	特色ある資料 19 「北海道に移り住む」	161	1	1998. 12	
17	特色ある資料 21 「初三郎式鳥瞰図」	163	1	1999. 6	
18	特色ある資料 23 『雑誌ワールドへようこそ！戦後の創刊雑誌』 (※道民ホール展 展示予定北方資料)	165	1	1999. 12	
19	特色ある資料 26 『北海道漫画』	178	1	2004. 3	

No.	記事名	号	頁	刊行年月	掲載欄
20	江別移転40周年記念展示を開催	183	1	2007.10	
21	(北海道立図書館のサイロ)	187	1	2009.7	
22	知里幸恵ノート	189	1	2010.7.23	

《資料展示に関すること》

No.	記事名	号	頁	刊行年月	掲載欄
1	北海道立図書館ボランティア・川守田順吉氏企画展「写真技術の歴史と北海道開拓の記録」	185	9	2008.7	—
2	北海道地図のあゆみ展	62	10	1970.5	—
3	北方資料展から(明治—大正の資料)—千島の文献	64	14	1971.1	—
4	館内所蔵資料展のお知らせ「いま、アウトドア宣言!自然とあそぼう」(仮題)	155	10	1997.6	図書館掲示板
5	館内所蔵資料展のお知らせ(※レッドデータアニマルズ in Hokkaido)	156	10	1997.11	図書館掲示板
6	館内資料展示のお知らせ「北海道の教育資料展」	167	12	2000.7	図書館掲示板
7	館内所蔵資料展のお知らせ『美味なるもの「なぜ?」を探して』	168	12	2001.12	図書館掲示板
8	館内所蔵資料展のお知らせ「ふるさとの“駅”をたずねて」	169	12	2001.3	図書館掲示板
9	館内所蔵資料展のお知らせ「資料でたどる来道者のあしあと」	170	12	2001.7	図書館掲示板
10	館内所蔵資料展開催中!「芥川・直木賞」作家と北海道	171	12	2001.12	図書館掲示板
11	館内所蔵資料展開催中!「北海道の“MANGA”」	172	12	2002.3	図書館掲示板
12	館内所蔵資料展開催中!「北海道観光旅行」	173	12	2002.7	図書館掲示板
13	館内所蔵資料展開催中!「手のひらのワンダーランド」(※奉仕部・北方合同展示、郷土豆本)	174	12	2002.12	図書館掲示板
14	館内所蔵資料展開催中!「酒…この旨しもの—北海道の酒展」	175	12	2003.3	図書館掲示板
15	館内所蔵資料展開催中!「すべては君の瞳の中に—フィルムコミッションと映像の中の北海道—」	176	11	2003.7	図書館掲示板
16	展示のご案内「木版蝦夷地図にみる北海道~北方資料室所蔵資料を中心として」	183	10	2007.10	図書館掲示板
17	展示のご案内「北の住まい」	184	13	2008.2	図書館掲示板
18	北方資料室展示「応援します!北海道企業」	187	5	2009.7	所蔵資料展
19	北方資料室40周年&国民読書年記念展「暮らしに、仕事に、図書館を~「こんなに使える!」北方資料編」	189	7	2010.7.23	展示

《北方資料室について、そのほか》

No.	記事名	号	頁	刊行年月	掲載欄
1	北方資料室	66	16	1971.8	各課だより
2	北方資料室	67	16	1971.11	各課だより
3	北方資料室	72	18	1973.3	各課だより
4	北方資料室の紹介	146	6	1995.3	道立図書館各課(室)紹介
5	(北海道立図書館のサイロ)	187	9	2009.7	—

北方資料室資料展示一覧

年度	テーマ
昭和44年度	松本十郎
	北海道地図のあゆみ（於 札幌丸善書店）
46	松浦武四郎
47	北海道地図史
50	所蔵資料に見る北海道の50年
52	有珠山噴火
	道内刊行の豆本
	昔の本と今の本 - 明治以前から今日に至る本の字体・形態・製本・装丁等の移り変り -
	北海道の「午」 - 昭和53年の干支にちなんで、ドサンコの歴史を中心に、品種改良・馬を題材にした文学作品の展示 -
53	市町村広報誌 - 明治・大正期の広報誌と現代の広報誌 -
	道内同人誌
	子供のためのユーカラ画集 - 岩船修三：絵／更科源蔵：詩の画集 -
54	子供のためのユーカラ画集 - 岩船修三：絵／更科源蔵：詩の画集 - その2
	図書館資料で見るふるさと展 - 昭和54年度全国図書館大会開催記念で行なった同展に出陳した図書館資料 -
	鉄道百年 - 明治から昭和に至る鉄道関係資料
	社会科副読本
55	アイヌを主題とした児童文学
	北国の味覚 - 北国の料理・飲食店・ラーメン展案内など -
	魚と釣
	アイヌの漁撈 - 「蝦夷島奇観」等 -
	北の暮らし - 文化的観点からの北国衣食住関係資料 -
	激動の50年 - 「北海道新聞」の復刻版を中心に -
56	スキーと共に - 冬山遭難を含めた資料 -
	開拓使蔵版資料
	明治年間発行資料（歴史・伝説・地誌）
	道内市町村発行文芸誌
	道内市町村発行郷土叢書
	昭和22年米軍撮影空中写真（札幌地区）
	北海道の昔話
北海道の童の遊び	
57	道内発行雑誌
	新総合計画策定資料
	観光案内図書
	町村勢要覧
	夕張市関係資料
	青函トンネル
	小樽運河・小樽市関係資料

年度	テーマ
58	室蘭市関係資料
	道内児童図書 その1
	道内児童図書 その2
	函館市関係資料
	地方史研究会会誌
59	最近復刻した図書（道史・千島・樺太関係）
	霧の街釧路
	旭川のまち
	鮭の話
60	石炭の話
	趣味の豆本
61	北前船
	花と緑の北の夏 - のぞいてみよう近未来 -
	地図から旅へ、消えた鉄道
	ふるさと叢書は大流行 北海道タウン誌会議
	梅木文庫
62	コロポックル関係資料
	古文書に親しむ
	新聞に見る明治大正昭和
	青函トンネル・青函連絡船
63	消えゆく青函連絡船
	アイヌ絵
	北海道の一村一品
	十勝岳大噴火
平成1年度	先人の足跡と開拓
	北海道のスポーツ
	北海道文学散歩
2	北海道の義経伝説
	雑誌にみる石狩川
	北海道の国勢調査
	「ヒグマ」資料
	流水
3	学び舎の記念誌 part 1 小学校
	観光・旅・アウトドア雑誌
	エトロフ関係書（古文書解読セミナー協賛）
	ご当地ソングEP盤ジャケット
	北海道の言葉資料
	北の祭事・歳時記
4	学び舎の記念誌 part 2 中学校
	活躍する道産子 part 1 スポーツ人物誌
	北海道の女性を考える
	プレイバック北海道 - 資料でみる20年昔 -

年度	テーマ
5	ふるさとの絵本
	博物館へ行こう
	いい湯だな北海道 - 北の温泉考 -
6	回想の樺太
	小説のなかの北の人
	北海道のナンバーワン
7	図書館にあるミニコミ誌
	戦時下の暮らし - 銃後の人々 -
	自分史のすすめ - あなたの物語ドラマ教えてください -
	活躍する道産子 part 2 表現者たち
8	北の大地を撮る - 大地の鼓動こえを感じて
	わたしたちの私的な関係 - 101組のわたしたち
	絶品！おいしい北海道
9	北の子供の本
	いま、アウトドア宣言 自然と遊ぼう
	北海道の国際交流 過去から未来へ
	レットデータアニマルズ in Hokkaido
	札幌オリンピックを回顧する あれから四半世紀
10	北海道X-FILE(謎と不思議の世界)
	どさんこ草の根の文学者たち
	北海道の絵はがき
	住むなら北海道だべさ！
	SAPPORO喫茶店グラフィティ
	北海道の冬のまつり
11	みんなで考えるゴミ問題 - 北海道版 -
	The TRAVELERS -北海道旅行ガイド -
	銭湯は招くよ！ - ほっかいどう銭湯ア・ラ・カルト -
	きたのよみひと - 歌集編 -
	記念絵葉書による明治・大正・昭和
	鳥になって、まちを見る - パノラマ地図の世界 -
12	目で愉しむ北のものがたり
	北海道の教育資料 - 明治から昭和初期を中心に -
	北海道義経伝説さまざま
	『美味』なるものの『なぜ?』を探して
	ふるさとの『駅』を探して
13	木に遊び、イモに遊ぶ ～木版画と薯(いも)版画で見る北海道～
	資料でたどる来道のあしあと - 7月・8月に北海道を訪れた人たち -
	あの日、あの時、あのメロディ…
	『芥川賞・直木賞』作家と北海道
	テーマ冬いろいろ
	北海道の“MANGA”

年度	テーマ
14	ふるさとの絵本とものがたり
	わたしたちの25の宝物
	北海道観光旅行
	道民気質を探る
	手のひらのワンダーランド - 豆本、蔵書票、装丁の美
	生きもの北海道紀行 - 北の国より2003 -
	酒 - この旨しもの - 北海道の酒展 -
15	北海道を学ぼう ほっかいどうの子供と子供の本
	すべては君の瞳の中に フィルムコミッションと映像の中の北海道
	馬・馬・馬の話 北海道の馬展
	冬到来 そのとき北の生きものたちは…
	時刻表あれこれ
	題名のない展示 - こんな資料もあります展 -
16	北の子ども 詩と文～そして、児童文学誌展
	おいしい道米喰べませう～国際コメ年～
	札幌軟石と煉瓦と、北海道の古建築
	懐かしのストーブ - 北国の暖房事情 今・昔 -
	北方資料室【地域資料】の資料展
17	しらべる ほっかいどう
	百聞は一見にしかず - 博物館へ行こう！ -
	シリエトク展
	北からの発信 - 雑誌は時代の映し絵 -
	道立図書館ゆかりの人々 - 館内アートトラベル -
	映画化された北海道の文学
	札幌オリンピック - トリノに寄せて -
	さらば！ わが学び舎よ・・・
18	HORSE 『北海道の馬文化』Plus+ (プラス)
	おいしい！食べよう！ほっかいどうの農産品
	北海道ブランドあれこれ
	(ミニ展示) 北海道ブランドあれこれ 別冊：ジンギスカンの巻
	(ミニ展示) GO! GO! 北海道日本ハムファイターズ
	カルタの世界 ～意外と奥が深い《カルタ》ワールド～
	(ミニ展示) そろっています！！北海道在住の人気作家五人衆
	北海道・司馬遼太郎の旅 ～菜の花忌(2月12日)に寄せて～
	(ミニ展示) 雪はかくもの？はねるもの？ - 道路除雪事情 -
	北の作曲家を振り返る ～北海道の音楽遺産～
19	市町村要覧は語る あの時、そこには村があった。
	(ミニ展示) おとなも楽しい！「北加伊道カルタ」誕生しました。
	地域の歴史を支える～道内の地方史関係雑誌紹介～
	(ミニ展示) 北海道開拓記念館特別展「鯨」との連携展示
	(ミニ展示) “食”の安全と安心に関する資料紹介 - 北海道の場合 -
	木版蝦夷地図にみる北海道～北方資料室所蔵資料を中心として～
	(ミニ展示) 《森≡海》のものがたり
	(ミニ展示) 副・読・本で学ぶ郷土の歴史

年度	テーマ
19	北海道の魅力・再発見！ーご当地検定&認定制度ー
	(ミニ展示)《ゆきむし》の資料と北海道内の昆虫同好会誌
	“北海道人”は、なにを食べてきたか
	(ミニ展示)アザラシ！北に生息する海獣展
	北の住まい
20	(ミニ展示)《しょっぱい河》の往還 ～連絡船100年/トンネル20年～
	北海道のスポーツ
	写真技術の歴史と北海道開拓の記録
	(ミニ展示)《碑》で辿る郷土・北海道
	あなたのまちの新聞があります ～プランゲ文庫新聞コレクションの紹介～
	(ミニ展示)北海道で空襲があった ～昭和20年のこと～
	北の旅、そして観光 今昔 ～蝦夷地探検からエコツーリズムまで～
	(ミニ展示)江別という「まち」 ～江別再発見～
	(ミニ展示)ふるさとのルーツを知ろう！ ～資料でたどる移住の系譜～
	榎本武揚 幕末と明治を駆け抜けた男 ～没後100周年を記念して～
	(ミニ展示)北方資料室へようこそ！ ～北方資料室ご案内展～
	北海道みなと物語 ～築港の軌跡を辿る～
	(ミニ展示)《北海道》主義！
応援します！北海道企業	
21	(ミニ展示)絵本で発見！ほっかいどう！
	知っていますか？ 北海道の“ご当地〇〇”
	(ミニ展示)「蟹工船」と小林多喜二
	北海道産業遺産 ～ものづくりの記憶を求めて～
	三浦綾子展 ～没後10周年に寄せて～
	(ミニ展示)三浦綾子展 ～没後10周年に寄せて～
	(ミニ展示)食育ってなんだろう？
	追悼・原田康子
	雪と暮らす・雪を楽しむ
	(ミニ展示)祝！直木賞！佐々木譲の世界
	(ミニ展示)「新着図書案内」からピックアップ！
	北海道の火山
(ミニ展示)知里幸恵資料展 「遺稿ノート」と「アイヌ神謡集」 ～道有形文化財指定記念～	
22	(ミニ展示)だいすき！きたのいきものたち
	北のゲートウェイ ～道内空港事情～
	(ミニ展示)平成21年度受入 道内文芸雑誌ミニ展示
	暮らしに、仕事に、図書館を ～「こんなに使える！」北方資料編～
	来て！見て！読んで！北海道の動物園
	(ミニ展示)北のアスリートたち ～野球篇～
	石川啄木展 ～北海道漂泊～
	(ミニ展示)新着文庫展示
	北海道の歴史を小説で学ぼう ～北方の探検家・箱館戦争編～
	竹鶴政孝と北海道～北海道にウイスキーを伝えた男の愛と情熱の物語～
	大正の広重 吉田初三郎と鳥瞰図の世界

これまでの講座・講演会

○「北方資料（古文書解読）講座」（主催：北海道立図書館 後援：北海道史研究協議会）

回次	開催年月日	内容
第1回	昭和39.12.24	講師：高倉新一郎氏 テキスト「古文書」 以下講師は高倉新一郎氏
第2回	昭和40.5.15	テキスト「飛騨屋文書」
第3回	昭和40.10.31	テキスト「於松前家中ヨリ申渡ス」
第4回	昭和41.3.29～30	テキスト「異国船渡来之節御用状并見分書写」
第5回	昭和41.7.26～27	テキスト「津軽紀聞」
第6回	昭和41.10.2	テキスト「蝦夷紀行」
第7回	昭和42.4.24～25	テキスト「林家場所請負文書」
第8回	昭和42.9.29	テキスト「蝦夷道中記」
第9回	昭和43.3.22～23	テキスト「蝦夷葉那誌」
第10回	昭和43.11.15～16	テキスト「蝦夷日記」
第11回	昭和44.2.7～8	テキスト「竹四郎廻浦日記卷廿三」
第12回	昭和44.6.19～20	テキスト「え美しものかたり」
第13回	昭和44.11.13～14	テキスト「奥州周辺松前并西蝦夷地唐太東蝦夷地見聞日誌写」
第14回	昭和45.6.18	テキスト「筥館紀行」
第15回	昭和45.11.19～20	テキスト「穂足内村騒立一件書類」
第16回	昭和46.6.29～30	テキスト「箱館往来」
第17回	昭和46.11.30～ 12.1	テキスト「蝦夷入北記（下）」
第18回	昭和47.5.16～17	テキスト「小樽内表御用留書写」
第19回	昭和47.9.13～14	テキスト「クナシリ嶋【イ】 ^{（注1）} 騒動届書記」
第20回	昭和48.5.17～18	テキスト「旧貫 完」
第21回	昭和48.9.20	テキスト「松川安次郎手記」
第22回	昭和49.4.16～17	テキスト「毛夷東環記—東蝦夷地紀行」
第23回	昭和49.9.26	テキスト「土肥恕平復命書（仮）」
第24回	昭和50.6.12～13	テキスト「上ツイシカリ・イザリ・ムイザリ蝦夷人ウラエ一件写書」
第25回	昭和50.9.11	テキスト「町年寄日記之内抜書」
第26回	昭和51.6.10～11	テキスト「北地御用留」

（注1）の漢字は人偏に夷

回次	開催年月日	内 容
第27回	昭和51.10.15	テキスト「松前築城につき申上候書付(仮)」
第28回	昭和52.7.4~5	テキスト「御倭約御触書」
第29回	昭和52.10.17~18	テキスト「蝦夷開闢 完」
第30回	昭和53.7.3~4	テキスト「蝦夷地土産」
第31回	昭和53.11.20~21	テキスト「他場所江差立至来留」
第32回	昭和54.7.5~6	テキスト「蝦夷地一件諸書附并聞書写」
第33回	昭和54.11.8	テキスト「蝦夷地御開拓諸取扱向荒増申上候書付」
第34回	昭和55.10.27	講師：渡辺茂氏 テキスト「関寛斎の辞世」他
第35回	昭和56.6.19	講師：渡辺茂氏 テキスト「大友亀太郎文書」
第36回	昭和56.10.20	講師：渡辺茂氏 テキスト「蝦夷商賈聞書」
第37回	昭和57.7.21	講師：丸山道子氏 テキスト「入北記(雨)」
第38回	昭和57.10.19	講師：丸山道子氏 テキスト「入北記(雨)」前回の続き
第39回	昭和58.6.24	講師：丸山道子氏 テキスト「箱館日記・箱館かへさ日記」
第40回	昭和58.11.2	講師：丸山道子氏 テキスト「後方羊蹄日誌」
第41回	昭和59.6.29	講師：丸山道子氏 テキスト「蝦夷地一件」
第42回	昭和59.10.24	講師：丸山道子氏 テキスト「恵曾谷日誌(弐)」

○「古文書解読セミナー」(主催：北海道史研究協議会 後援：北海道立図書館)
第1回(昭和55.8.18~19)~第25回(平成16.8.7)

○第1回北海道史研究大会(平成17.6.4~5 主催：北海道史研究協議会、北海道立図書館)
(第2回~ 主催：北海道史研究協議会 後援：北海道立図書館)

○北海道市町村史編集研修会(主催：北海道立図書館 後援：北海道史研究協議会)

回次	開催年月日	内 容
第1回	昭和46.8.6~7	講師：高倉新一郎 講義「地方史編集の手続き」
第2回	昭和47.6.8~9	講師：高倉新一郎 講義「市町村史の編集」
第3回	昭和47.10.17~18	講師：高倉新一郎 講義「北海道市町村史編集の基礎知識」報告「市町村史編纂状況調査結果」
第4回	昭和50.1.30~31	講師：高倉新一郎 テーマ「市町村史編さんのあり方」 講師：渡辺茂 講義「市町村史編さんにたずさわって」 講師：関矢マリ子『野幌部落史』執筆あれこれ

○講演会「資料で語る北海道の歴史」

回次	開催年月日	内 容
第1回	平成 19. 10. 13	[北海道立図書館江別移転 40 周年記念事業] 「戦後史の出発～市町村勢要覧の史的価値～」 講師：君尹彦氏
第2回	平成 19. 10. 20	[北海道立図書館江別移転 40 周年記念事業] 「河野常吉のフィールドノートと地域史研究」 講師：関秀志氏
第3回	平成 19. 10. 27	[北海道立図書館江別移転 40 周年記念事業] 「古地図と地域史研究」講師：高木崇世芝氏
第4回	平成 20. 9. 20	「殖民地区画図と開拓～長沼町・新十津川町を例として～」 講師：卜部信臣氏
第5回	平成 21. 7. 20	「ヨイチ場所でのアイヌと出稼和人の取引について」 講師：駒木根恵蔵氏
第6回	平成 22. 9. 4	[北方資料室 40 周年記念事業] 「北海道の出版文化史 -昭和時代を中心にして-」 講師：出村文理氏
第7回	平成 22. 11. 6	[北方資料室 40 周年記念事業] 「絵葉書に写された北海道と江別」講師：佐々木孝一氏
第8回	平成 23. 2. 6	[北方資料室 40 周年記念事業] 「竹鶴政孝と北海道」講師：蓑輪陽一郎氏

○そのほかの講座・講演会

開催年月日	内 容
平成 17. 9. 30	郷土を調べる基礎資料・入門編
平成 18. 2. 28	郷土を調べる基礎資料・入門編
平成 18. 9. 29	郷土を調べる基礎資料・入門編
平成 18. 10. 28	郷土を調べる基礎資料・入門編
平成 19. 7. 26	はじめての製本
平成 20. 7. 31	新聞で調べる北海道知識
平成 20. 10. 31	新聞で調べる北海道知識
平成 21. 10. 24	講演会「北の大地のフルーツを！」
平成 22. 7 (全 5 回)	[北方資料室 40 周年記念事業] 今すぐ暮らしに役立つ北方資料入門講座

北方資料室40周年記念事業

北海道立図書館が札幌から移転した3年後の昭和45年、それまで、一般資料と同様に扱っていた北海道、旧樺太、千島に係る資料を収集・整理・保存し、様々な調査・研究等の支援を一元的に担当する北方資料室が誕生しました。



特別コレクション代田文庫

当時は、蔵書も1万6千冊余りでしたが、40周年の平成22年度には、23万冊を超えています。貴重な古地図、古文書等も北方資料デジタル・ライブラリーで、自宅から閲覧できるようになりました。今年度は、40周年を迎えた北方資料室を、よりアピールするために数々の記念事業を実施しました。



北方資料室入口

1 今すぐ暮らしに役立つ北方資料入門講座 7月1日～29日

初めての試み、5回連続講座を開催しました。講師は、北方資料部員、7月の毎週木曜日、7月1日の北海道の歴史や文化を身近に、そして、毎日の暮らしに役立つ情報の探し方、北方資料室の使い方等を実際の資料を使いながら講義と実習で行いました。定員は各回20名、延受講者は75名、5回連続の受講者は11名でした。



第2回はじめての北方資料活用術



第3回簡単！便利！ネットの上手な調べ方のコツ

第1回 7月1日「北方資料書庫ツアー」

23万冊の図書、視聴覚資料や雑誌はどのように保存されているのか、ふだん見ることのできない資料を手に取りながらのツアーでした。

第2回 7月8日「はじめての北方資料活用術」

北方資料ってどんな資料？北方資料の活用方法等の基本を講義しました。

第3回 7月15日「簡単！便利！ネットの上手な調べ方のコツ」

インターネットで地域の情報を調べてみよう。会場を教育研究所に移し、パソコンを使っ
ての演習でした。



第4回 パソコンから広がる地図の世界

第5回 気になる疑問を解決！そのテクニク

第4回 7月22日「パソコンから広がる地図の世界」

地図の種類、北海道の地図の歴史等を講義、また、実際に古地図や地形図等様々な地図
も紹介しました。

第5回 7月29日「気になる疑問を解決！そのテクニク」

古い資料だけが北方資料じゃない、いま暮らしに役立つ情報や日常の疑問を解決しよう、
新聞、雑誌、パンフレット等身の回りの様々な地域の資料の使い方を講義しました。

アンケートでは、「北方資料室の業務がわかった」「北方資料が身近な資料の寄贈でできてい
ることを初めて知った」「パンフレットが役に立つことを知った」等好評でした。

2 講演会

(1)「北海道の出版文化史—昭和時代を中心として—」 9月4日(土)

講師 北海道史研究協議会会員 出村文理氏 参加者46名



資料を紹介しながら、講義される出村氏

明治期の開拓使・道庁による官庁出版物とそれ
に続く民間出版物から大正、昭和の道内の出版状
況について、ご講演いただきました。

講演では、たくさんの図書や雑誌が紹介され、
特に当館で代田文
庫として所蔵して
いる資料で、戦後東
京を中心に北海道

に疎開した出版社による活発な出版活動やそれによる北海道
の出版ブームのお話等や、出版を通じた北海道の文化について



道内の様々な出版物を展示

も触れられ、40名を超える参加者から、「とても興味深かった」「戦前の出版物の流れがよくわかった」等の感想や様々な質問が寄せられました。

また、会場では、関連したミニ展示コーナーも開設しました。講演会の開催に当たっては、北海道史研究協議会に講師等で大変お世話になりました。

(2) 「絵葉書に写された北海道と江別」 11月6日(土)

講師 江別市情報図書館長 佐々木孝一氏

参加者 40名



絵葉書のもつ背景を講義する佐々木氏

明治33年以降製作が認められた私製葉書(絵葉書)、貴重な絵葉書を映しながら、その歴史や絵葉書から見た北海道・江別の街の歴史について、ご講演いただきました。40名の参加者からは、「まったく知らない世界を教えてもらい、興味深かった」「古い絵葉書の見方が変わった」「地域の歴史が絵葉書に秘められていることがわかった」等、こちらもとても好評で



会場内の絵葉書のミニ展示

した。会場に作られた道立図書館所蔵の絵葉書のミニ展示コーナーでは、講演の合間に手に取る方も多数いらっしゃいました。

(3) 「竹鶴政孝と北海道～日本にウイスキーを伝えた男の愛と情熱の物語～」

2月12日(土)

講師 アサヒビール(株)ウイスキーア

ンバサダー 蓑輪陽一郎氏

参加者 70名

ニッカウヰスキーの創業者、竹鶴政孝の生涯について、アサヒビール(株)の協力を得て、講演会とセミナーを開催しました。

講演会では、定員を大きく上回る応募があり、会場の研修室いっぱいの70名の参加者となりました。さらに、



竹鶴政孝の生涯を講義する蓑輪陽一郎氏

急遽、翌週19日に、DVD「竹鶴政孝物語」の上映会を開催し、こちらも19名の参加者がありました。「竹鶴政孝と北海道」の講演では、「感動しました」「竹鶴政孝の人柄の素晴らしさがわかりました」「余市の蒸留所に行けないので、参加しました」等の感想が。セミナーでは、ウイスキーの成り立ちや種類、おいしい飲み方等の話に、「日本のウイスキーが本場でも評価されていることを知った」「帰りにウイスキーを買って帰ります」とこちらも好評でした。

3 資料展示

(1) 「暮らしに、仕事に、図書館を～こんなに使える！北方資料編～」

7月1日(木)～8月29日(日)

7月に開催された「いまずぐ暮らしに役立つ北方資料入門講座」に併せて、北方資料室の歴史を振り返る資料展示会を開催しました。

「北方資料って何?」「これまでの歩みを振り返る」では、北方資料室の概要や歴史を紹介し、「こんな時、こんな資料」「何かと役立つパンフレット」では、北方資料室に寄せられた様々なレファレンス事例やお役立ち資料の紹介、調べ物にも使えるパンフレット等を展示しました。



「こんな時、こんな資料」コーナー

(2) 「竹鶴政孝と北海道～日本にウイスキーを伝えた男の愛と情熱の物語～」

2月11日(金)～3月6日(日)

余市町で起業し、日本のウイスキーの父と言われている竹鶴政孝の生涯について、北海道の産業史のひとつとして、アサヒビール(株)、余市町図書館の協力により、資料展示会を開催しました。資料展示は、当館で所蔵する資料の他に、アサヒビール



(株)からお借りした北海道に蒸溜所の適地を調査したメモ、日本初の蒸溜所の設計図、政孝がリタ夫人に贈った本、ニッカウキスキー第1号の70年前のウイスキー、ピート等も展示しました。資料展示は、道立図書館の展示終了後、道内市町村の希望により順次開催する予定です。



4 発行物

(1) 「暮らしに、仕事に、図書館を～こんなに使える！北方資料編」

22p 平成22年8月発行

7月に開催しました「暮らしに、仕事に、図書館を」に併せ発行しました。北方資料室の概要から、お役立ちパンフレット紹介、レファレンス事例等を載せています。

(2) 「北の資料 北方資料室40周年 北方資料室の足跡を振り返る」

50p 平成23年3月発行

記念事業の総まとめとして、3月末に、40年を振り返る「北の資料」40周年記念号を発行しました。北方資料室を支えてきた方々のエッセイや40年の様々な記録等を載せています。

北方資料室いまむかし

～昭和45年度と平成21年度の統計数字をみくらべる～

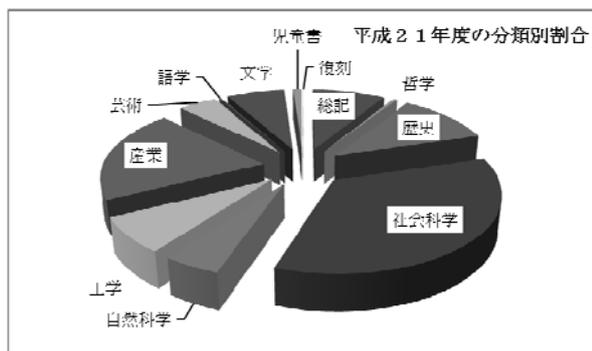
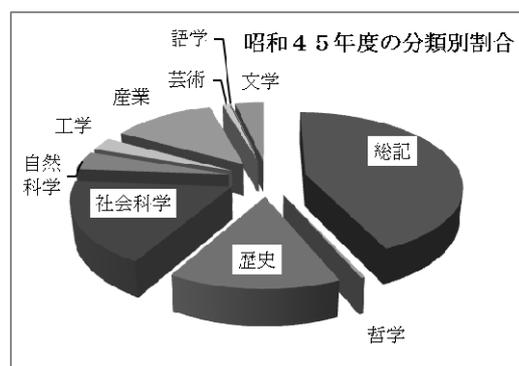
<蔵書冊数>

北方資料室として独立した昭和45年度の業務実績によると、昭和46年3月現在の北方資料の図書の本数は15,762冊。40年を経た平成21年度（平成22年3月現在）の本数は231,755冊。およそ15倍に増加しています。

分類ごとの冊数は以下の表、およびグラフのとおりです。

(単位：冊)

分類	S45	H21
総記	6,805	19,976
哲学	57	996
歴史	2,321	25,940
社会科学	2,823	81,110
自然科学	639	11,107
工学	449	17,238
産業	1,967	46,062
芸術	136	10,490
語学	17	304
文学	548	15,893
児童書	—	2,479
復刻	—	160
計	15,762	231,755



* 昭和45年度の児童書、復刻資料は、該当する各分類の本数にくりこまれている。

<貸出>

貸出冊数については、平成11年8月に直接貸出を開始するまで、図書館（公共・大学・専門）に対する協力貸出のみの数字でした。

北方資料独自の貸出冊数が記録されているのは昭和46年度以降。昭和46年度の業務実績によると、貸出冊数は464冊です。

平成21年度の業務実績によると、協力貸出し3,146冊、直接貸出し3,005冊となっています。なお、直接貸出しの本数には、平成18年4月から実施されたインターネット予約による申し込み分334冊も含まれています。

(単位：冊)

	協力貸出し	直接貸出し	直接貸出のうち、 インターネット予約
S46	464	—	—
H21	3,146	3,005	334

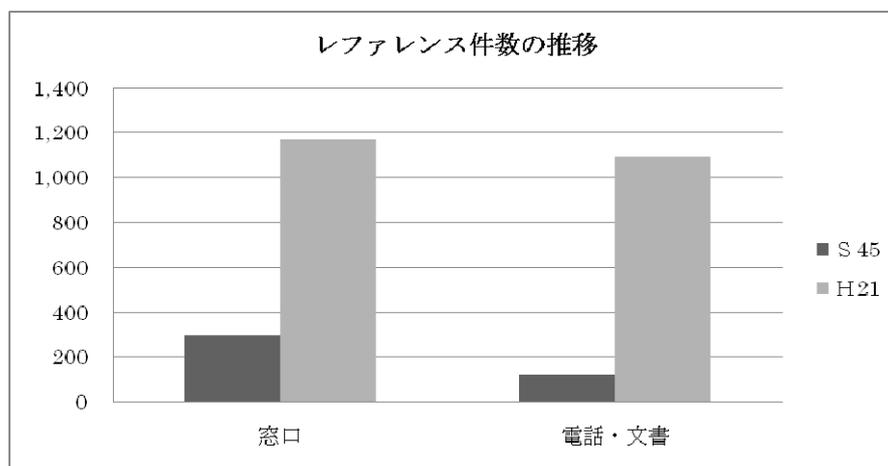
<参考業務>

昭和45年度の参考業務（レファレンス）件数は、窓口で受けたものが297件、文書・電話によるものが121件、計418件となっています。

平成21年度は、窓口受付が1,169件、電話・文書によるものが1,095件、計2,264件でした。また、近年メールによるレファレンス依頼も多く、平成21年度は143件（個人・図書館からを合わせて）ありました。

（単位：件）

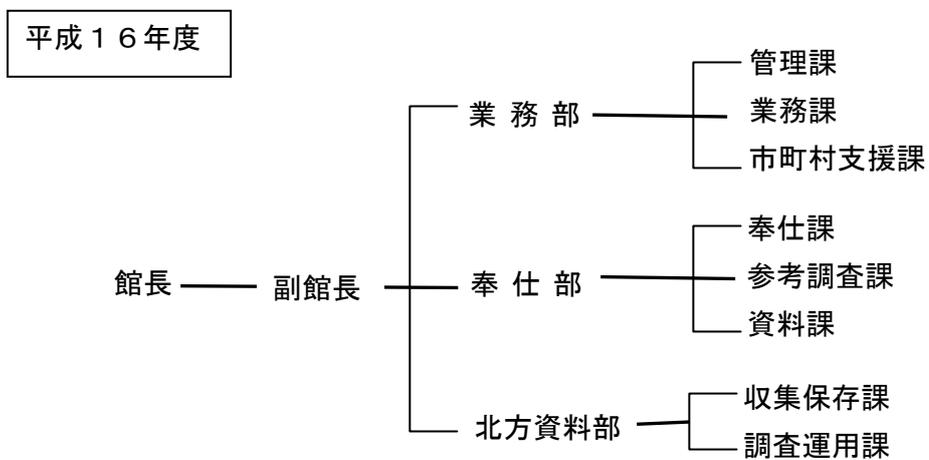
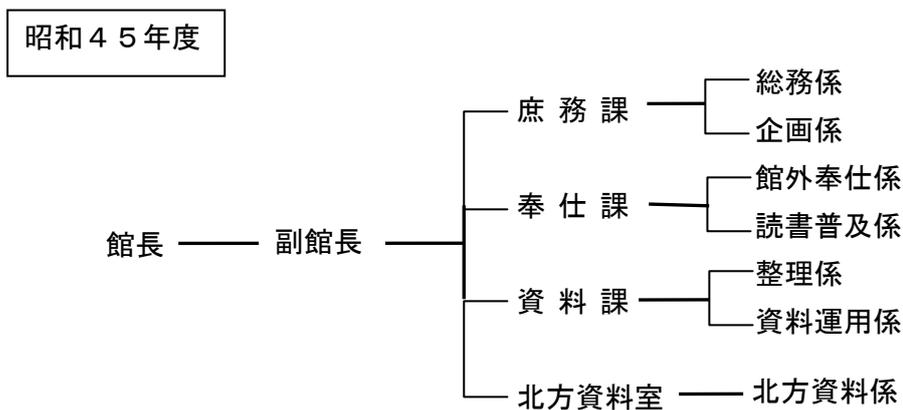
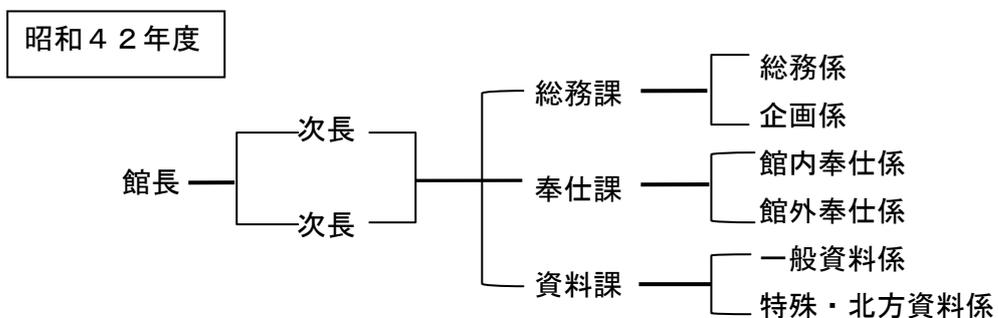
	窓口	電話・文書	うちメールによるもの
S45	297	121	—
H21	1,169	1,095	143



（*業務実績による）

機構の主な変遷および歴代北方資料室長（部長）名

<機構図>



<歴代北方資料室長（部長）名>

初代室長	岡原 正司	昭和45～51
第2代室長	君 尹彦	" 52
第3代室長	原田 貞夫	" 53～58
第4代室長	岸本 花子	" 59～平成元
第5代室長	榊原 上	平成 2～ 3
第6代室長	堀木 健司	" 4～10
第7代室長	大島 教子	" 11～15
初代部長	樋山 ミチ子	" 16～18
第2代部長	佐々木 裕道	" 19～21
第3代部長	鈴木 浩一	" 22～

◀ 歴代室長の記事に歴史を学ぶ ▶

北方資料室の礎を築かれたお二人の文章からは、当時の活気やご苦労が伝わってきます。

●初代・岡原正司室長執筆記事

- ・「歴史の証人 地方新聞 貴重な資料の所在を追跡して」
『月刊ダン』4巻9号（1976.9）
- ・「講演『図書館で学んだこと』」
平成2年度渡島社会教育委員研究集会講演 請求記号：P379.4/T0
- ・「一期一会 忘れられない人びとのこと」
『〔北海道史研究協議会〕会報』59号（1996.12）
- ・「山田秀三を語る 4 山田秀三さんの思い出」
『アイヌ語地名を歩く 山田秀三の地名研究から 2006・釧路/十勝』
（北海道立アイヌ民族文化研究センター 2006.9） 請求記号：7.29/A

●2代・君尹彦室長関連記事

- ・「北海道の資料収集5カ年のまとめ」（君尹彦著）
『北海道立図書館報』No.66（1971.8）
- ・「この人に聞く 君尹彦さん」
『北の図書館』8号（北の図書館5人の会 2006.12）
- ・「弔辞」（卜部信臣述）『〔北海道史研究協議会〕会報』83号（2008.12）

編集後記

「来年度も自分が北方資料室に居るのなら、40周年記念事業をやるんだけど…」退職を前にした佐々木前北方資料部長の一言が始まりでした。その思いを引き継ぎ、北方資料室の存在意義やこれまでの歩みを再確認するとともに、利用者の皆様にも広く知っていただき、更に北方資料を身近に活用していただきたく、様々な記念事業を展開したこの1年。総まとめの記念号がようやく完成しました。40年間の折々の写真なども掲載したかったのですが、そこまでには至らず、次の機会を待つこととなったのが少々残念です。

お忙しい中、寄稿して下さった皆様、ありがとうございました。励ましや期待の言葉は嬉しくありがたく、時に耳が痛く、また、初めて知る歴史のひとコマなどもいくつもあり、節目のこの時に教えていただけたことは、大きな喜びです。

年表以降の記事は、北方資料部7名全員で分担しました。館報や業務実績、当館の40年史や50年史等、関連文献や当室OBの話などからこれまでの歴史を振り返るなかで、資料の収集に始まり、整理、目録類の発行、書誌解題、レファレンス、事業その他、諸先輩が一から営々と築き上げてきたものの大きさ、労苦、情熱、そして継承していく責任の重さを痛感しました。また、歴代室長（部長）が異口同音に語っているように、北方資料室を支え、協力し、応援して下さった周囲の多くの方々があつての今日であると、感謝に堪えません。

北方資料は北海道の宝物です。北方地域の歴史や文化、そして現在を知る資料を、日々に活かし、後世にも伝え、いつまでも活用し続けていただくために、私達は常に成長し続け、皆様の期待に沿えるよう努めながら、41年目の春を歩み出します。

北方資料室40周年
北方資料室の足跡をふりかえる
(北の資料 第124号)

発行日 平成23年3月31日
編集 北海道立図書館北方資料部
発行 北海道立図書館
〒069-0834 江別市文京台東町41番地
電話 (011) 386-8521
FAX (011) 386-6906
<http://www.library.pref.hokkaido.jp/>
